



好古圖彙

二

15
1485
2



1883
S

LIBRARY
OF THE
S. A. S.

門 45
號 1485
卷 2



多賀城碑畚圖

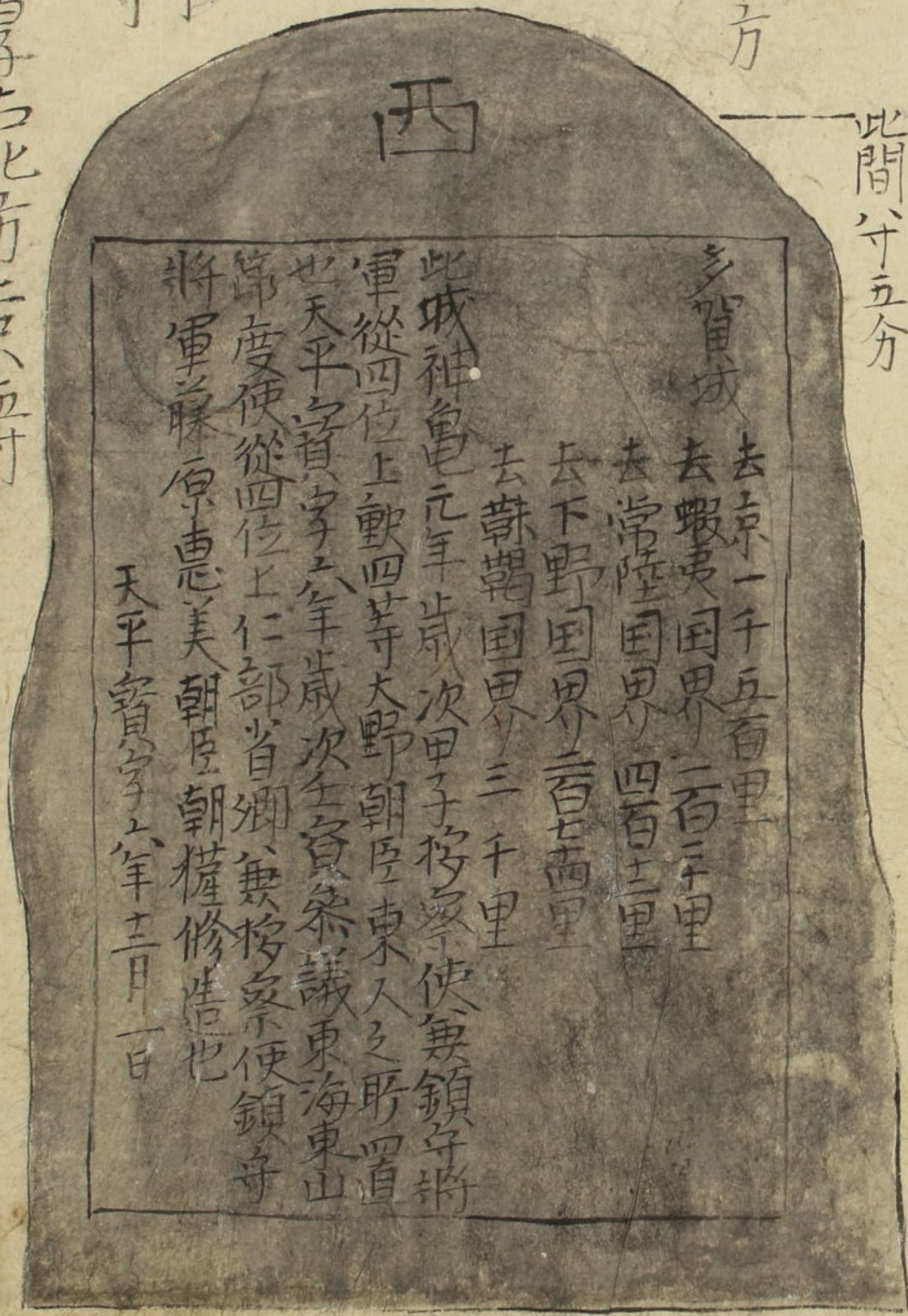
此間五分

石厚左南方
一尺

一尺

石高五尺五寸
河幅三尺四寸

石厚右北方二尺五寸



西

多賀城

去京一千五百里

去蝦夷國界二百三十里

去常陸國界四百三十里

去下野國界三百七十里

去蘇我國界三千里

此城神龜元年歲次甲子按察使兼鎮守將軍從四位上敷四等大野朝臣東人之所置也天平寶字六年歲次壬寅參議東海東山節度使從四位上仁部省卿兼按察使鎮守將軍藤原惠美朝臣朝權修造也
天平寶字六年二月一日

早稻田大學圖書館
昭和 34.9.15 受
藏 書

池ノテラスの年のはりより文字も四角に石も楕圓にしてて是ヲ
見るとの成ニ否其後この之碑の体自然石も文字も平らな
ヨリます六つ石の三三三三三三三三三三三三三三三三三三三
して人の尺に楕圓楕圓楕圓楕圓楕圓楕圓楕圓楕圓楕圓楕圓楕圓
城の七十里に碑ありその石も南勢村の地にて是重村と云ふ所
村に重山と云ふ山ありて山に石碑あり村民を教へ社を建て是
を祭小の神として仕奉る眼も異くありあり碑面は文字も上りり
刻し文字も明かなりといふありあるあるあるあるあるあるある
するものありて故に知人ありと云ふ好むもの士は碑ヲ楕圓にして
来きども極をものものを楕圓にして刻すといふて世に弘まらず
多量な楕圓ありといふ是に對する市の碑ありといふ
碑や信州のありありと云ふ楕圓ありといふ
陽道のありありと云ふ楕圓あり

石室 碑

石室より西界二百千里と刻めり此時代は小倉より今より六丁を
二里といふ所のありは此碑に記して二百千里と刻めり二百六十
二里と刻めり二百千里と刻めり即ち今より楕圓を記して二百六十
二里と刻めり二百千里と刻めり是古に記すに今より楕圓を記す
と云ふ石室の石も多量な楕圓ありといふ三百千里と刻めり
二百千里と刻めり此古に記すに今より楕圓を記すといふ天
宮宮の石も此古に記すに今より楕圓を記すといふ
このありありと云ふ此古に記すに今より楕圓を記すといふ
小倉より石室より今より楕圓を記すといふ切徒て臨府を
記す此古に記すに今より楕圓を記すといふ石碑を楕圓
記して石室より今より楕圓を記すといふ

南を田中より地とて如を夷地と云ふれり是古に相夷也
あり又その年余年之後 桓武帝に地所の中ニ征東將軍故上
將軍祢田村廣遠大ニ征伐して陸ニ多量の城を小治の方里千里
々々ちたふ云々半里也之方南新ふるちる仲使に即帝傍に後從
せしめて海を南に目せし地とて如を夷地と云ふれり是古に
是中にて相夷也又其後六百年を距り 後醍醐天皇
帝嘉吉三年武田右衛門尉信廣海に鐵を相夷也之礼みし
陸ニ地ヲ治ルるの小城居る千里大なる半里是則ち之松前
為野中より相夷也其を云ふを云ふるの如也

上野國片岡郡池邑碑

上野國多胡郡本郷碑 高四尺四寸 横二尺 厚一尺一寸五分

弁官符上野國片岡郡緑野郡耳良郡并三郡内
三百戸郡成給羊成多胡郡和銅四年三月九日
甲寅宣在中弁正五位下多治比真人大政官二
只穂積親王左大臣正二位 石上尊右大臣正二位
藤原尊

穂積親王墓碑ト云石キ樟樹カリテ碑身半ハ樹ニカラマルト云下ニ墓アリテ

其碑多和銅年自之形也耳官給給給給の目を刻し
行是の形也之を中を云ふ之を云ふ之を云ふ之を云ふ
碑ありと云候云傳る也

三西復石アリ中ソソテ平尾ノ如シ三尺四方ニテ厚サ六寸アリ

堀兼井碑

武藏國入間郡掘金村淺間山禁下小窪之所
方六尺斗石十章井桁トス
秋元侯臣岩田彦卯 建之

此凹形之地所謂堀兼井之蹟也恐久而
遂失其趣因以石井欄置切中削
碑而建其傍伴備後監

里詰堀而難得水故去介兼難未智後俗耳
寶永戊子年三月朔

川越藩士 建

享保九辰の暮三塚山増きこの塚の邊に淺間院皇宮院邊院
武藏國入間郡掘金村淺間山禁下小窪に
此の昔川越の城をとりて臨倉ありて體二層敷伎井井
まて水を掘りてあやまらるる井は庭に由りてありしが
川越の堀りての思ふよれ殊世られぬ

武藏國入間郡掘金村淺間山禁下小窪に
此の昔川越の城をとりて臨倉ありて體二層敷伎井井
まて水を掘りてあやまらるる井は庭に由りてありしが
川越の堀りての思ふよれ殊世られぬ

川越方竹語二里余早の方之

汲を知ら人もあり先年の侍りて堀兼の井乃屋れか

西行法師

法勝寺執行俊寛僧都墓石碑

相傳僧都在遷疏黃嶋以文治三年丙午四月十五日竟殂于配所
其臣有王^五葬之植松其上即蓋距今五百七十二載云事在国史可
徵也今茲欲天龍法印之石于松之傍而余記之且後世不誤古蹟
銘曰松而墓矣詭古信今人之鄉德曷不傷心

高^一尺三寸
幅^一寸
九里^一中昔有^一王^一松^一之^一傍^一而^一余^一記^一之^一且^一後^一世^一不^一誤^一古^一蹟^一
銘^一曰^一松^一而^一墓^一矣^一詭^一古^一信^一今^一人^一之^一鄉^一德^一曷^一不^一傷^一心^一

上那湯津上村碑

高^一一尺三寸
幅^一寸

永呂元年己丑四月飛鳥海見原大宮那須國造追
大壹那須直事提許督被賜歲次庚子歲正月二壬
十日辰節弥故意斯麻呂等

天武帝陵碑銘云

相所江島祠ノ側ニ古碑アリ高五尺許廣二尺寺厚四寸

大日本國
江島靈迹
建寺之記

土御門院時良皇ト云僧入宋ニテ慶仁禪師ニ得^レ飯^ル
上^ニ竺^家書^上三^字三^行ナリ其外^ニ龍^雲氣^影付^横畫^{アリ}
碑^文ヲ^記ス石^断テ^横紋^{アリ}文字^温又^滅ニ^テ知^ヘカ^{ラス}

文章之文字磨滅三行不讀依之不記

大日本國江島靈迹建寺之記

大日本國江島靈迹建寺之記

陸奥國宮城郡燕澤蒙古人亡塊吊碑錄名僧清俊建之

大呂ノ直并對ノ足益斗折方又此列出磁吊之龜元
壽危子後頌矣弘安第王元仲秋十日彼岸終里未
清俊謹撰此釋文夫以人直宜從道人正益舉教云
川位劉因吊以塊元前死次後頌

文章七字四行也

寬政元巳酉年掘出弘安元戊寅年將軍惟康親王時代
星霜相歷古又五百五十餘年

武藏國府中國分寺碑

武藏國府中國分寺碑

在昔 聖武之朝崇信釋教下詔天下年國肇
造僧尼二千一百金光明四天王護國之
碑記依長文畧之

寶曆丙子春三月攝津服雄撰東都河保壽書
法印權大僧都賢盛立之

高廿六尺五寸 廣廿二尺一寸 藥師堂前右ノ方
碑服元雄中英先生撰 書八河保壽 三行出當寺法印賢成豐建所也

野州宇都宮城北芳宮山清巖寺所建鐵塔波多



兼白蓮一財問夫母者四思之元也孝者百行之源也因茲當千
炳現阿字索口口口忌口口卒都波之治鑄弥陀之種子三尊之正和
九年壬子月孝子口禪智俱金剛口口先妣之菩提則持諸佛之照譬皇
去趣之以此架口靜智若域速生之品之淨臺乃至法界與華寺利益敬白

奥而安積郡之山驪東如寶寺境内所建古碑 建保七年
巳壬二月日下在之碑 文依同断畧之

碑表

方師 阿彌陀 碑

南無阿彌陀佛

寬永五年三月五日
雪翁月成居士

同背

武而江戸京橋紀國屋櫻井又大夫正月二日御冥夢
所六郷大橋蒙大師御筆此名号法名雪翁月
成居士万人誅愚筆為供養也

右江戸京橋物店紀國屋櫻井又大夫正月二日御冥夢
所六郷大橋蒙大師御筆此名号法名雪翁月
成居士万人誅愚筆為供養也

輿州宮城郡燕潭邱碑全圖前碑文章詳也

夫目人直宜并對入豆益以於之入北利由
元磁帛止意元壽氣午後殞矣

弘安第又元元 玄戰 仲秋 平日 彼岸 終 里來清後謹摺

養老滝碑美濃國多藝郡多度在備藩侍讀近藤篤識

元正御極王道平々問民疾苦閔物則天當之禱多度之山天降嘉瑞
地出奇泉清潔可食養而不窮人受其福玉明之印一飲一浴不老不死
衰者再盛癯瘠可起春本如是萬古混混君子是取鑒戒堪存陵谷變
遷湮晦是懼於是建碑以識其所

乾隆辛酉年歲次乙巳正月吉日 吳超程亦城書
乾隆辛酉年者當日本天明五年也

武藏國多麻川水神碑

多麻河泊雨左良湏
豆久利佐良佐良
南奈仁曾許能兒能
已許大可奈之伎

玉川碑陰ノ記 白河廣瀨典撰 同藩大家桂書

水名玉川天下凡六在武而為其一而水道屢
移問而莫以得平井董成考索舊照有以年近
者認以是請我 老公書其古歌一首以勸碑

樹ニテ之於多麻郡猪方村ニ而後ニ古蹟屹然ノ與負石共ニ
 立シ世夫微顯闡幽春秋之志ナリ董成其ノ蓋ニ學以此乎況
 范公之信賂證干後世而有餘也而ノ以テ爲表ト平
 文化十四年丁丑臘月

古々文化ニ及母ニあり多麻川ニ社ニ傍リ地
 ニ文人碑を建てんとを而ひて 白川繁翁君ニ
 而る事と能く存りしと古より一首の事と傳へれは
 頌の良玉を撰きて彫せしり

相馬嶋立澤之碑銘文

公物ニシテ
 是の碑は
 嶋立澤に
 ありては
 古蹟と
 稱せらる
 也夫微顯
 闡幽春秋
 之志ナリ
 董成其ノ
 蓋ニ學以
 此乎況范
 公之信賂
 證干後世
 而有餘也
 而ノ以テ
 爲表ト平
 文化十四
 年丁丑臘
 月

衣さハ彷彿と神とも云われルリ嶋立澤の昔の事
 今も亦を昔の物と云ふ事多嶋立澤の夕暮れ
 眺まると物といふと碑の物といふ事と云ふ

相馬嶋立澤之碑
 相馬嶋立澤之碑

下野國那須國造碑銘

永昌元年己卯四月飛鳥洋郡原大宮那須國造重天壹那須直事
是評督被賜歲次庚子年正月二十子日辰節你故意斯麻呂等
碑銘德云尔作惟續公廣氏尊國家德探一世之中重被哉照
命之期運見再甦碎骨現躡豈報前思是以曾子之家无有
傷于仙且之門无有罵者行先之子不改其銘銘受先心濟神照
乾六月童之意香助坤作伎之大合言喻字故無莫長飛元國

於物物世碑 碑古きものありしとて 跡多し多故よ 創を人の知るものあり
りしを元祿多かり多手重りの跡しとてありて 昔れ士徳を物三百年とて 其
を是され地をあらせせとて 碑をあらせせ ありて 田畑をあらせせ ありて
ありて 村ち所院とて 山伏を列ありて ありて ありて ありて ありて ありて
上村とて ありて ありて ありて ありて ありて ありて ありて ありて ありて
物を年ち令を自ら之を世に記す 永昌とて ありて ありて ありて ありて ありて
白石をせしむ ありて ありて ありて ありて ありて ありて ありて ありて ありて

甲州穂坂邊大穴口碑

渡辺子固所作也 伊藤仁奔門人

銘文云三三之嶺 宮久保三澤村民千餘口古來無水仰賴雨水晴日
過旬則踰峻嶒止嶮馬牛以運溪水國王憫天下且勿得者莫如水
而此村獨不得易得者命且山口兵衛源政俊救其難苦堤於
野長半間穿風越山三百間及小山十所合四百間引淺尾堰之水名
穂坂堰取諸庄名云三村之民非止得資飲水於村內亦墾稻田
若干頃感載洪恩請勒石因託享保三層戊戌三月起
工九月 甚成

武藏國豐島郡小日向慧日山金剛寺

禪宗

鎌倉右府將軍實朝公碑後山至

惠日山金剛寺始設波多野中務忠經為鎌倉右府將軍實朝公為善提
建長二年文年建之相而波多野莊田原村後江戶下野入道之心後寺於武州江戶
莊小日向御金杉村亦其後文明年中太田左衛門入道靜勝軒春花道源重興焉
昔日者臨濟宗也其時之開山普應國師示戒巨舟和尚中興叔悅禪師承之已
年改曹洞宗者也維時永正十癸酉年有吉金剛現住比佐實山叟記之
金剛寺殿鎌倉右府將軍實朝公大禪定門美久正巳卯年正月平七日

鮑間齊藤氏戰死墓碑

碑面三尺五寸餘高五尺計
幅二尺五寸計

野火留入正野野村由宿
禪宗德藏寺境内數
在之

至弘化五百年來之碑三寸
風流千古之迹八見千物也

鮑間齊藤三島藤原實朝公
於武州府中五月十五日討死
光明真言 元弘三年五月十五日
關五月十五日
同孫七家行廿三回死鮑間孫郎
容長廿五枚相列村同

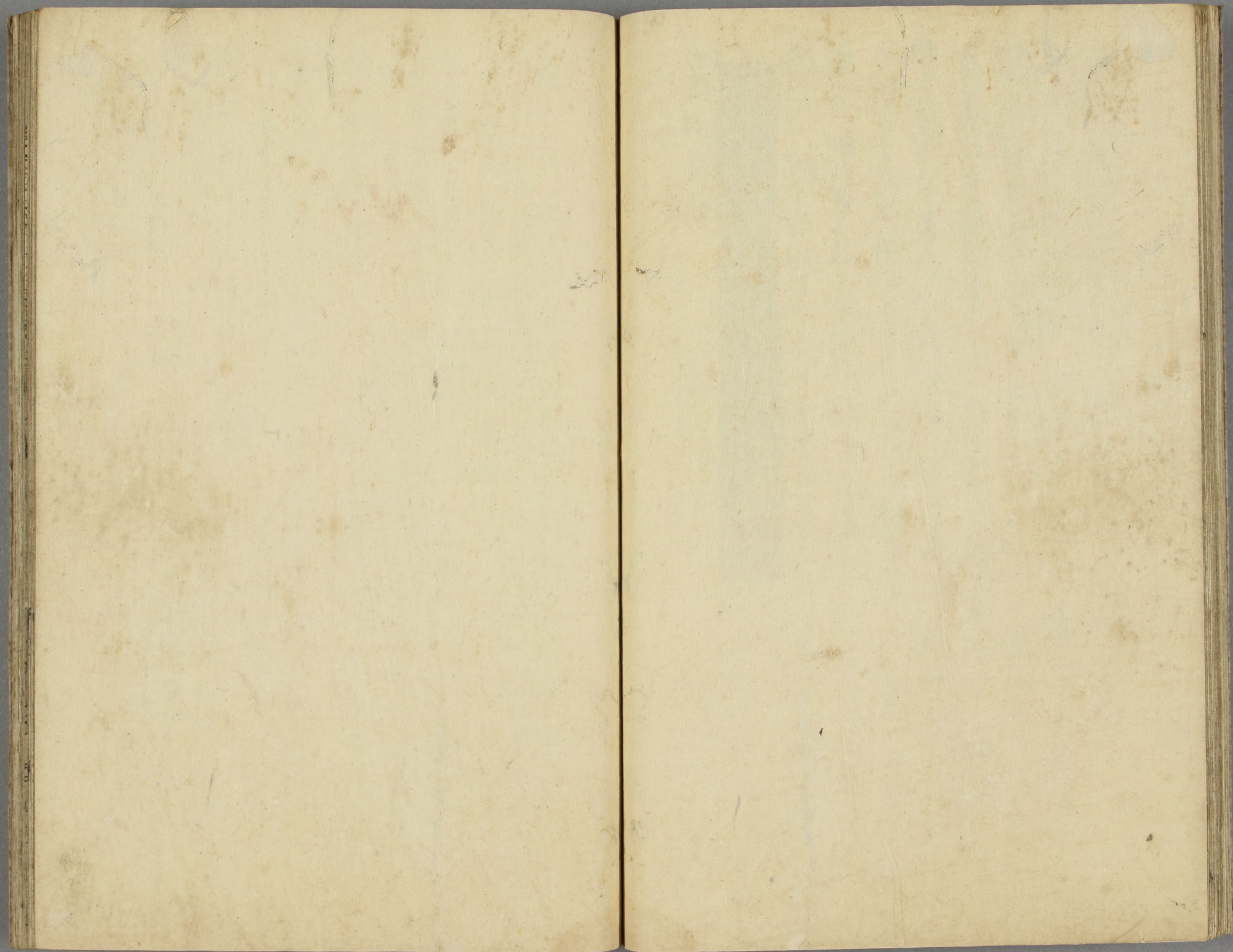
讚而屋嶋佐藤次信碑

石碑高六尺幅二尺五寸余厚二尺五寸石高三尺四寸下切石壇畧置墓也

次信

維年壬午夏 我為受封讚而的為維城助確乎其不自處可謂為一可謂武之
暇波蘭水乘彩鷁吳歌越唱消遙屋嶋偶斷見佐藤次信碑墓乃命下更刊
負石建碑表義終負於平君之用意也深矣哉至天誠次信不與死乎元曆之昔而
所恩于寬永之今矣其幸矣哉乃命余作碑銘遂之百知左留右崇之系諸載曆日月
爰臨操行曰託所載前史所傳麻止今焉至甲之焉胡敢言

於皇次信兮按于瀆危之場酬恩致死兮百世誰曰不誦過繼當銘兮蹟于鐘
雄銘謝定膽壯兮誠依教美良有常左可稱右兮維夫在綱之良建碑刊
石兮遺烈山言向水長實承承全未仲夏上院涉毫於高松城下依
大年松平石京大天源賴重公命 儒臣岡部氏拙齋作之



人皇三十七代 孝德帝陵前石燈籠篋者高廿天五尺掉石廻リ天但篋篋
 三ツ三分ル干時文政九丙戌年正月廿九日武所多麻川領附三益邑鎮存有是後
 白山崩出ル至而大昔ノ物テ其甚雅也

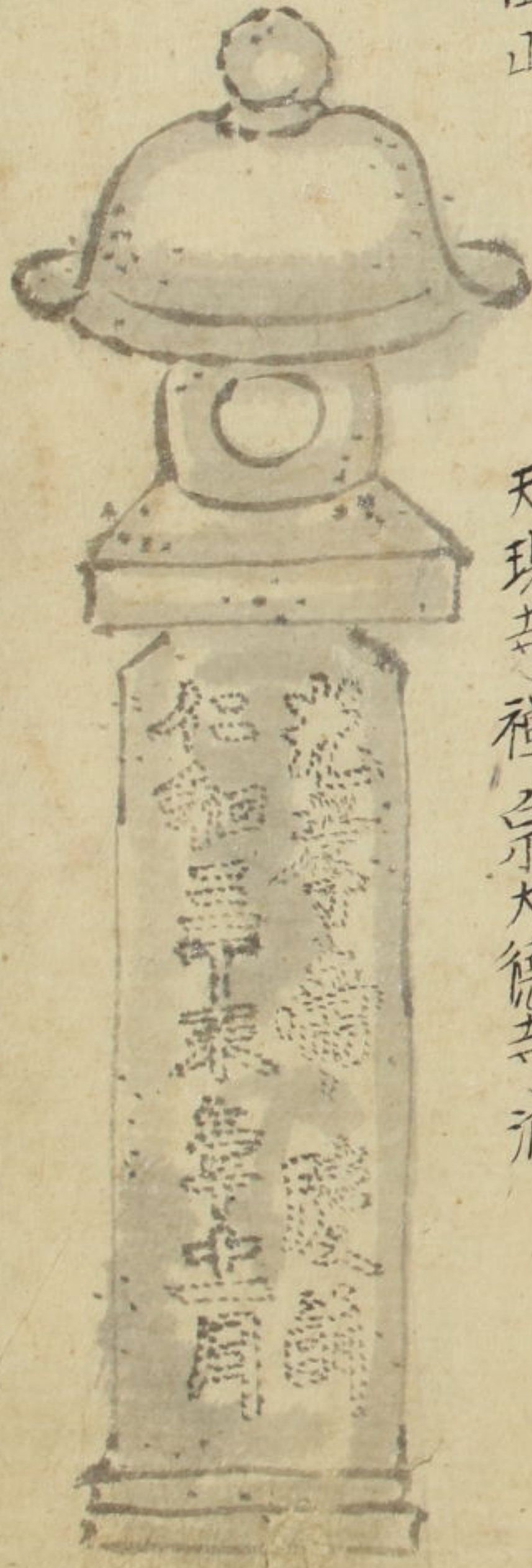
自大化四年 天保十年迄
 星霜相歷又凡千五百
 五十二年二成

可為感賞其舊

人皇辛八代 光孝帝陵前石燈籠篋者高廿六天斗是又往石ノ石ニ甚雅也
 武所麻布平尾有多聞山
 天現寺 禪宗大德寺流

白仁和三三年天保十年迄
 凡九百四十年二成

石石篋者依破壞
 延年再與其俾有
 度更也可惜矣雅也



羽郡司好實方小野之小町

号墓印者五尺斗ノ石燈笠也

古小石川茶玉山無量寺
自寛平九年天保十年迄
八四十七年二成



從位上左近衛中將兼左馬頭源義朝臣鎌田兵衛正清寄附 銘有之

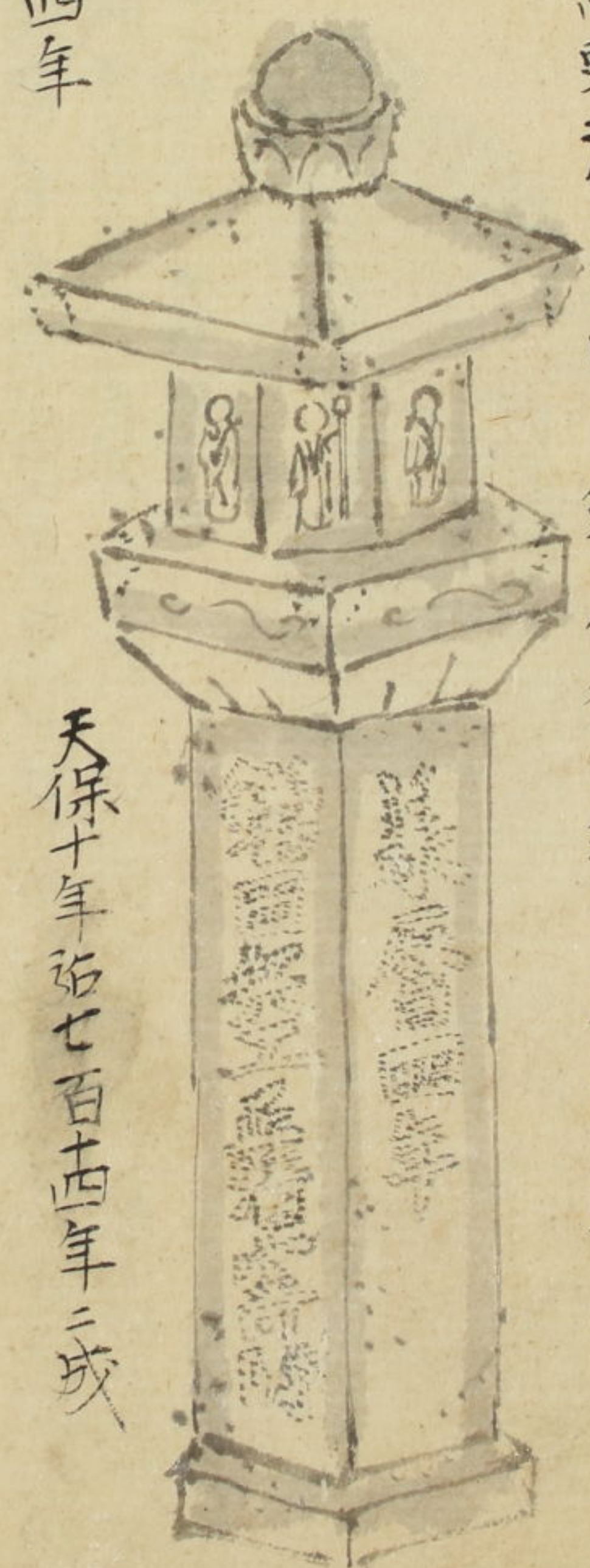
石燈笠高廿五尺斗

為六角在地藏形

右美曆四年寄附

淺草馬道左角所家

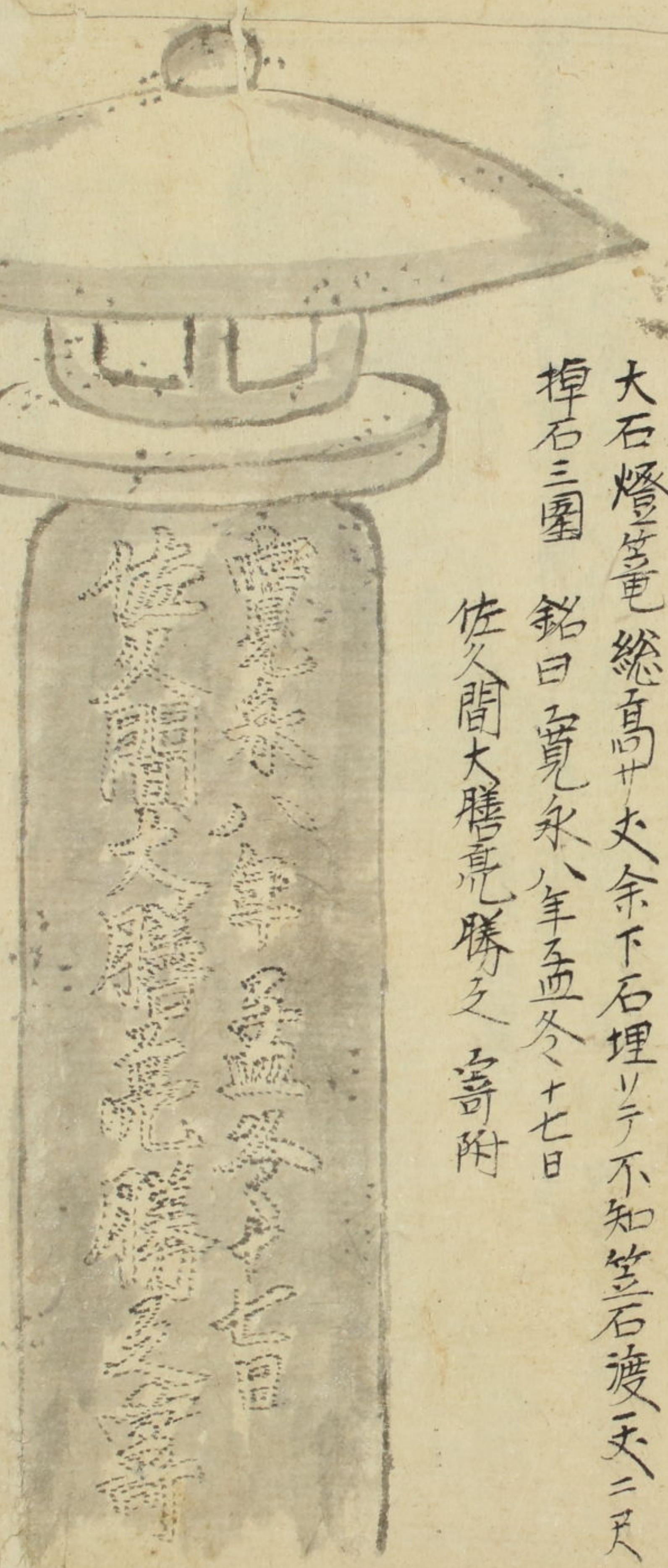
斬下二存之 自美曆四年



天保十年迄七百四年二成

大石燈笠總高廿丈余下石埋リテ不知笠石渡天二尺
掉石三圍 銘曰寛永八年孟冬十七日

佐久間大膳亮勝之寄附



京都南禅寺 尾形執由 此燈笠與 另本朝三燈笠
右三ヶ所與二右同人寄附寸尺亦相同
東叡山中大佛ノ後ノ方ニ存之

与久米平内兵衛石像者四五尺斗ノ
心像也九易浪人元禄七年自造之

銘有之

疑武術師鈴木正三石平傳
二王座禪可成刑相



淺草觀音境内五智如来後

小石川海藏寺同人夫婦墓者之

夫婦
石像

俗夫婦
号地藏



本所北番場
石屋某在之方ニ有之
男上下着ノ形ノカイソツ也

烏石

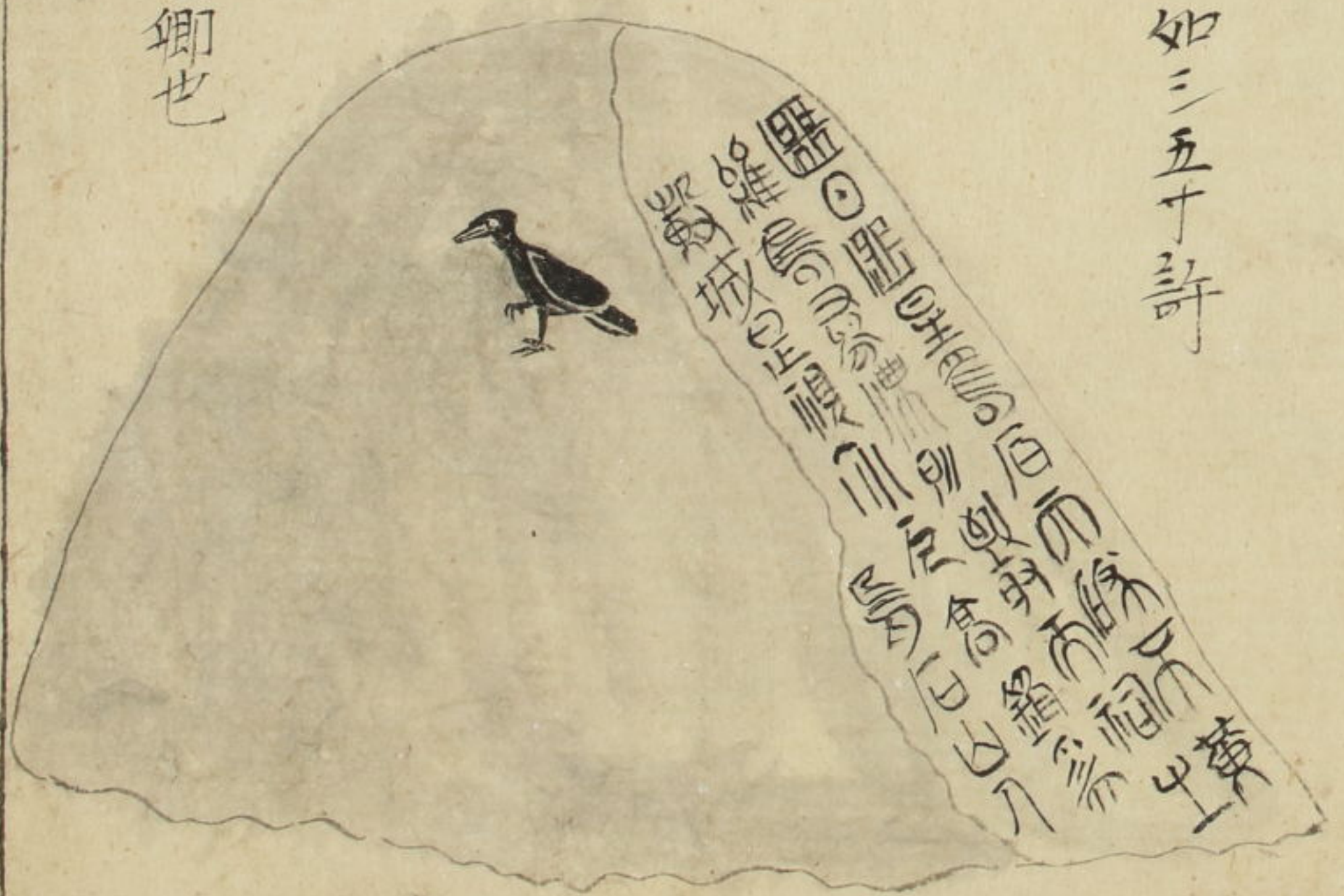
鈴森八幡社境内

大廿三尺余石色青ク烏形黒漆ノ如三五寸許
石ノ左肩ニ碑アリ南郭子銘ス
書ハ古篆ニシテ烏石葛辰鑄ス
石前ニ聯アリ左ノ如シ

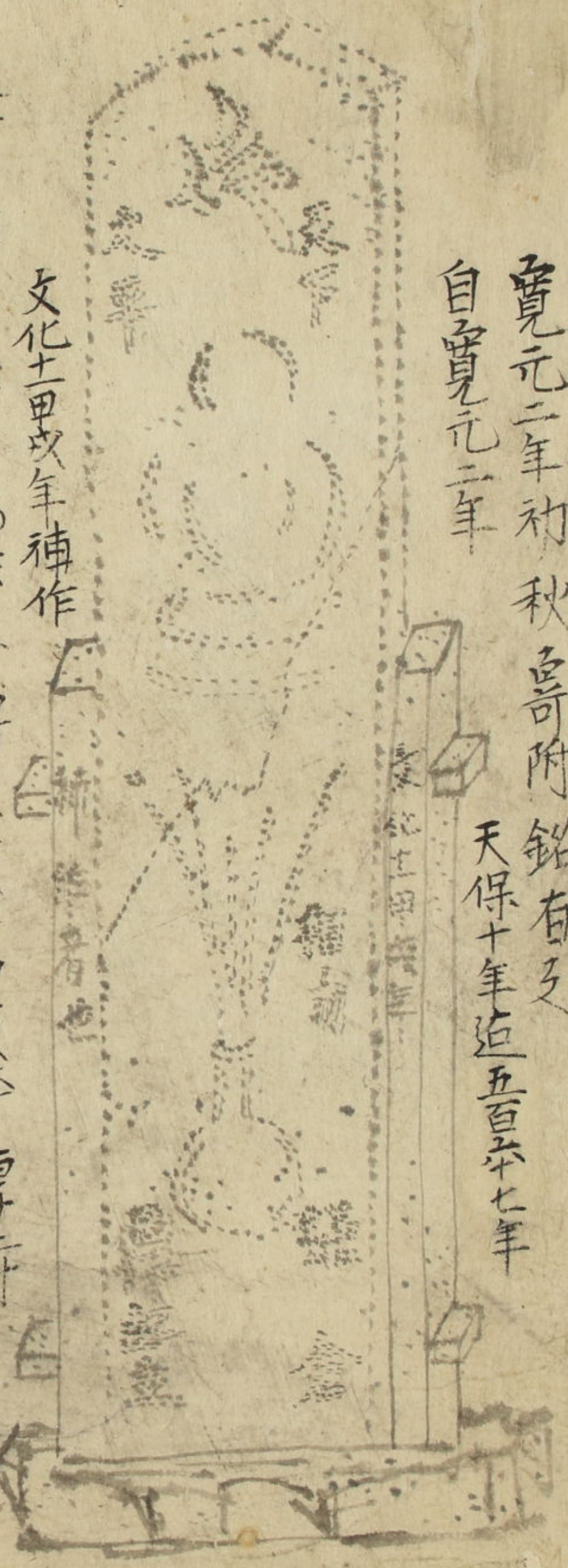
新秋明珠笠色雨
僊降茶海飲森風

明和元年八月 藤定福

筆者ハ梅小路正位參議藤原定福卿也



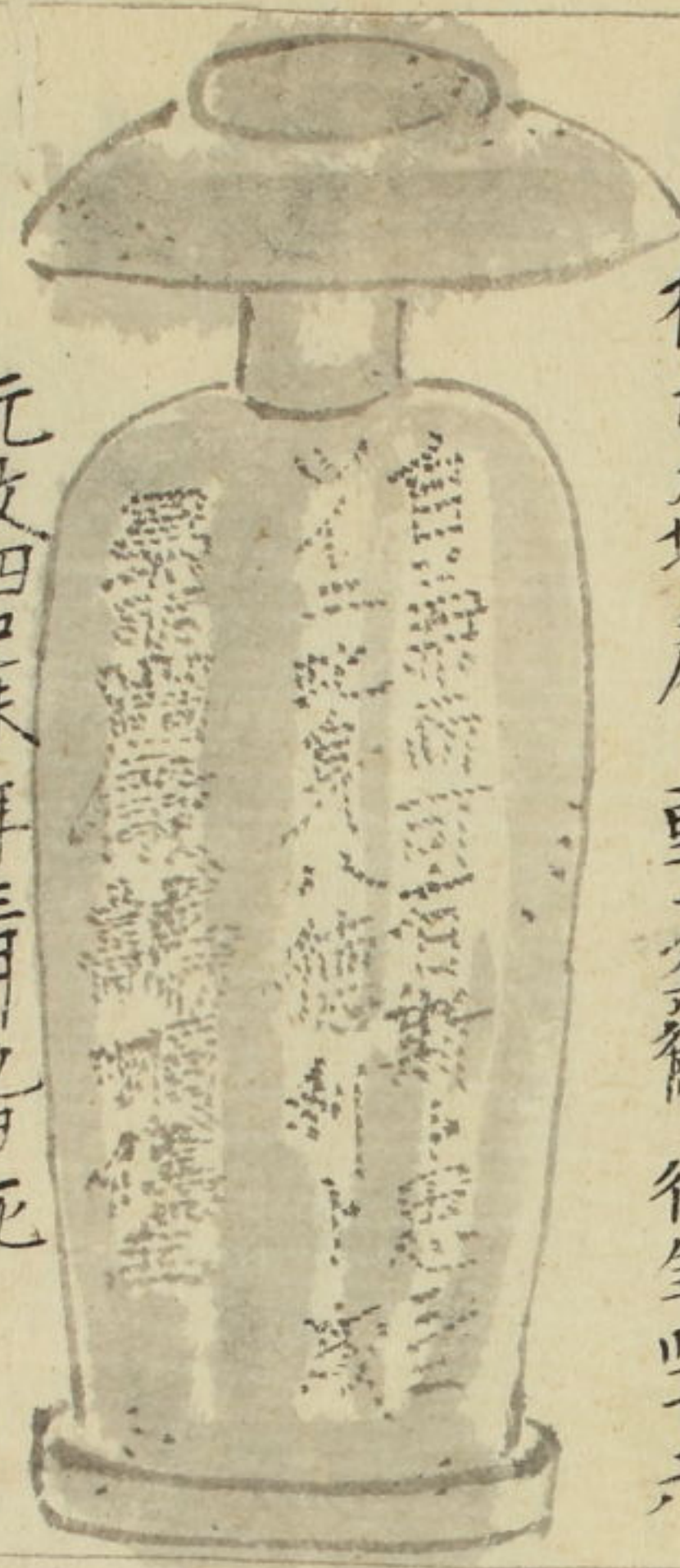
鎌倉將軍賴嗣臣 鎌田兵衛正入道西佛 起立
 寬元二年秋 寄附 銘有之
 自寬元二年
 天保十年迄五百零七年



文化土田改年神作
 本所午御前 法華十部供養 碑長三尺許 中尺許 厚二寸

銘曰奉造三釋迦像一軀 負觀十七丁未三月日法華十部 明王院

德利墓 本所回向院 右之
 榎町大坂産 上野也兵衛 行年四十六



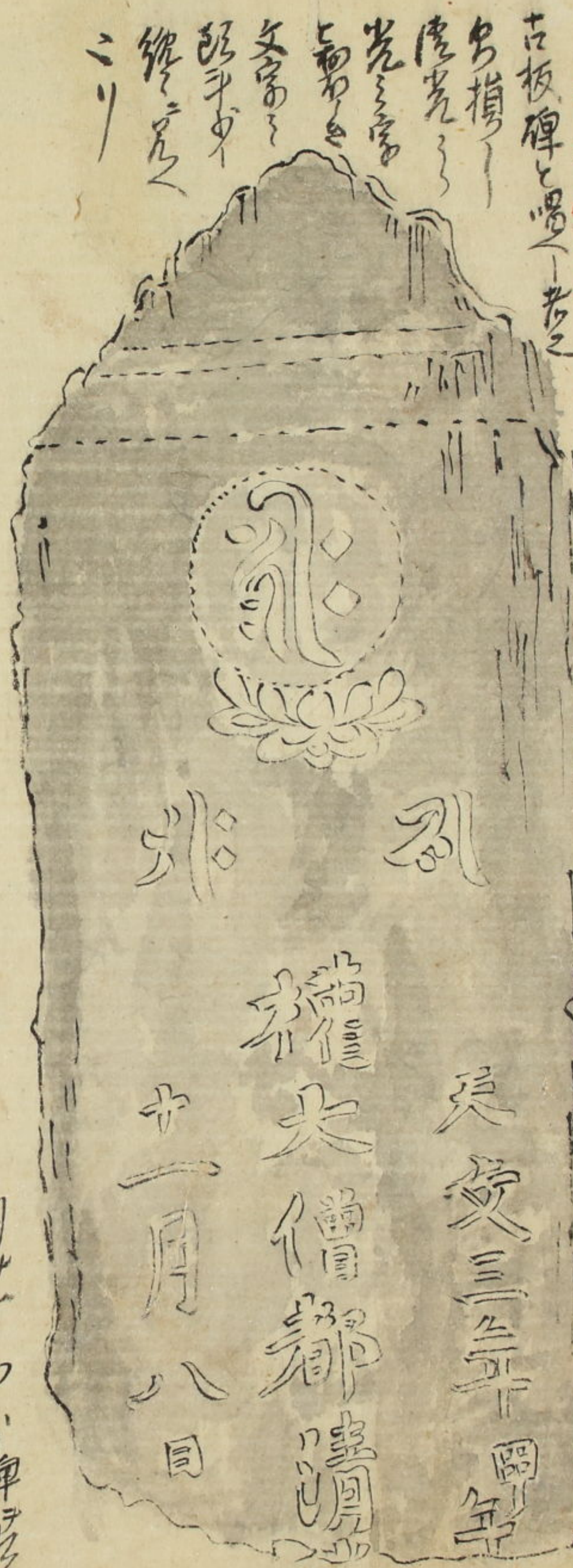
元文四巳未年三月九日死

号千葉石者四五尺斗 如圖ノ石也
 淺草小塚原又本所龜戸同名ノ
 石有之



豊前左門尉清光碑石

自天文三年甲午至天保六年己巳三百七十年
 足立郡洲江領矢新田貞三宗匠王山清光寺豊前家代々菩提所
 先祖康家建仁元年八月十日死三子清光美久三年二月十日死在之
 古板碑と唱一考之



方佛二五身七寸... 怪りあり... 寺々... 碑... 還りしと云

堅三尺七分 横一尺五寸許



但し佛名
 三音菩薩父
 持明院
 三光のり
 重有以遊
 方南方
 後生死
 永現世
 菩提也
 文龜元年六月五日

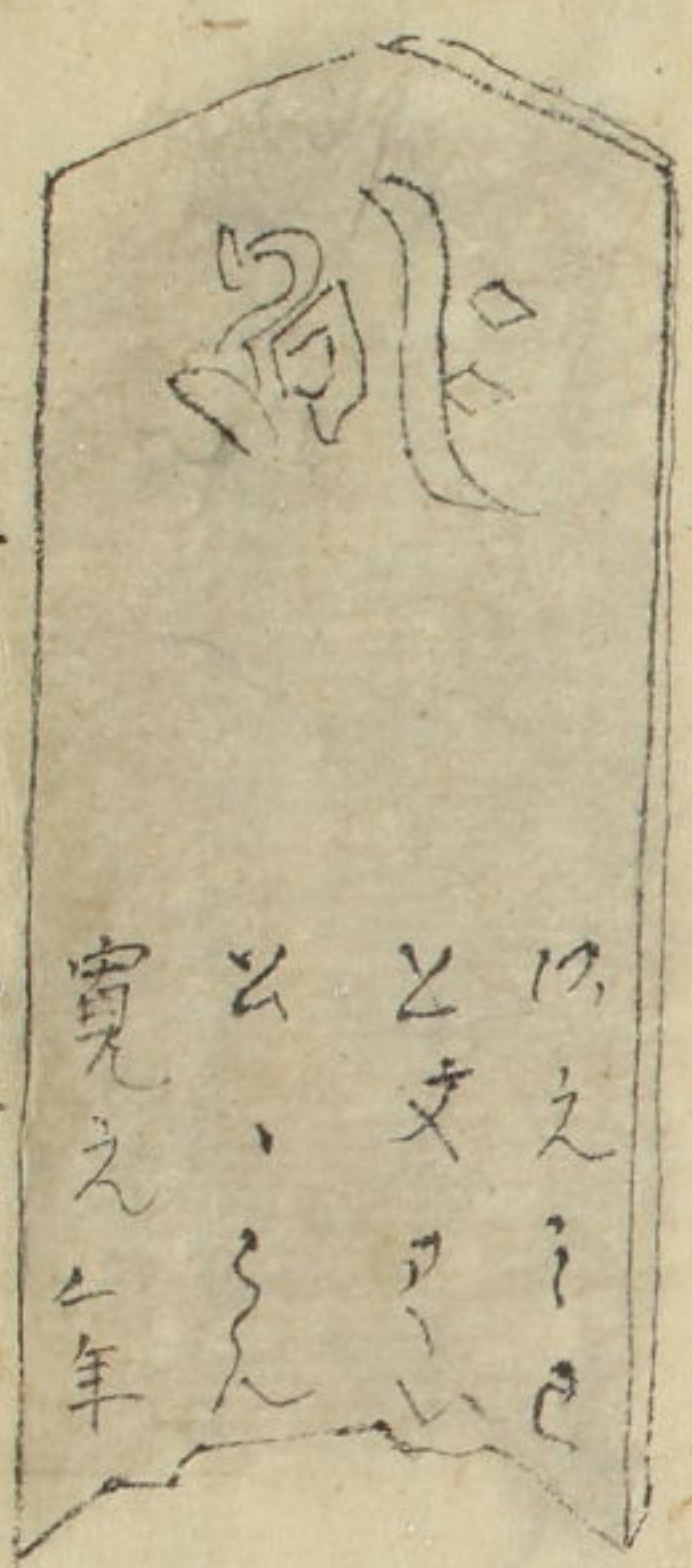
堅三尺許 横一尺三寸許



文永
 年人皇平代龜山帝將軍

文龜元年辛酉年人皇百五後柏原帝御宇
 將軍足利義植 三百十九年

堅四尺五寸 横一尺五寸



以之
 上文
 公
 寛元二年

寛元元年癸丑年 人皇十七代後嵯峨帝 五百五十七年

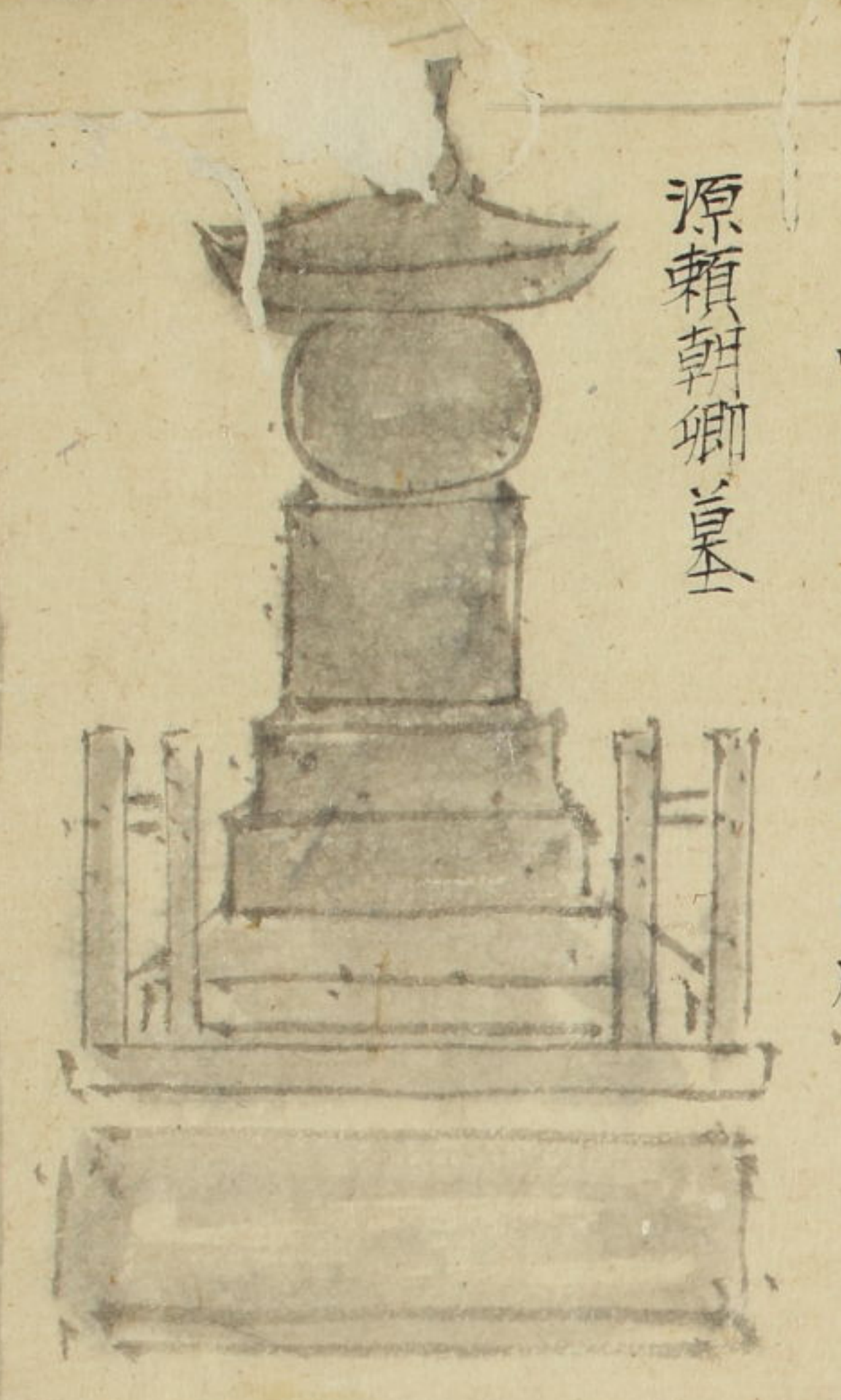
文永 年人皇平代龜山帝將軍
 宗尊親皇 五百五十五年



五輪塔
 範頼墓
 高サ 三尺許
 無銘

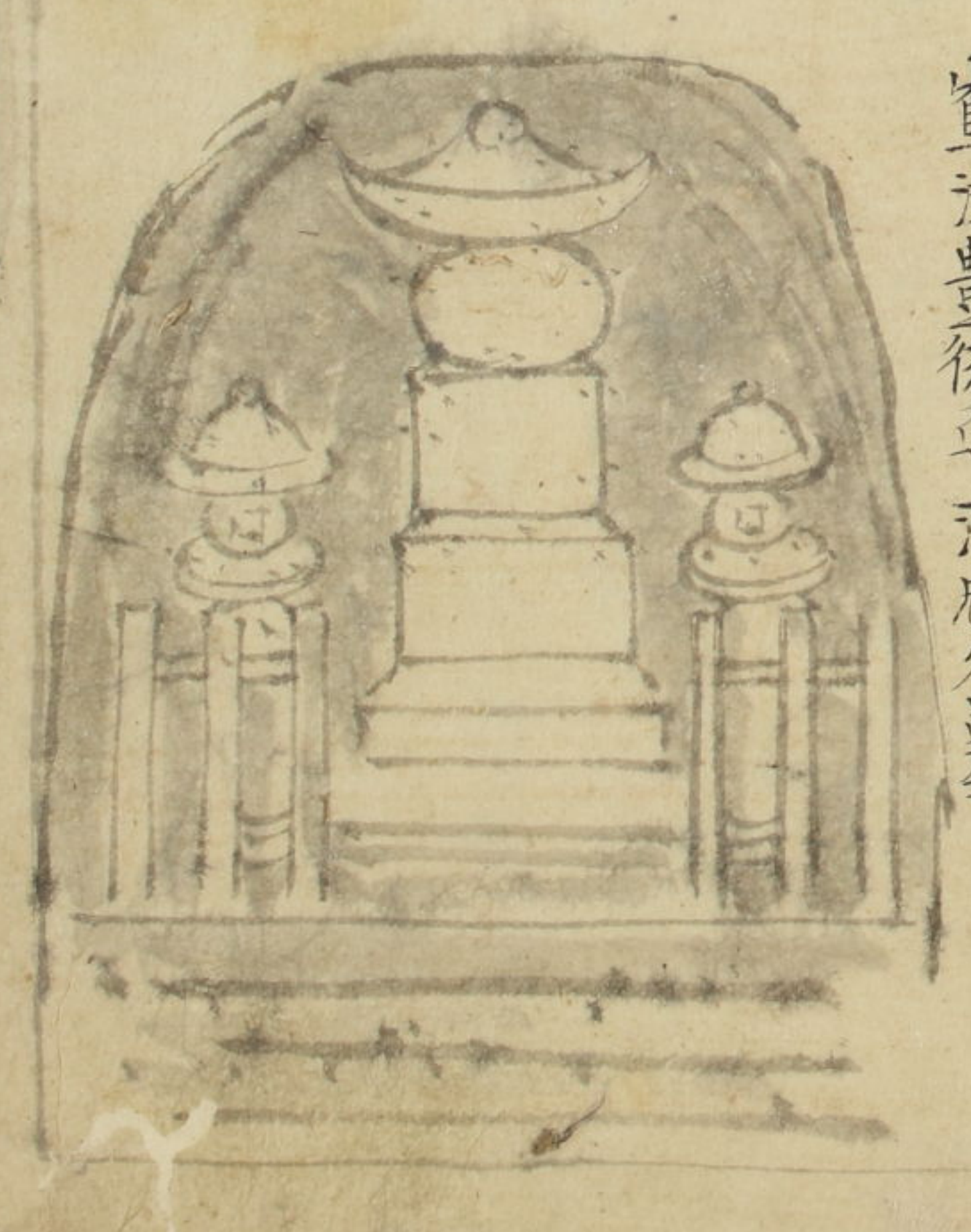
里を倍しては昔世ありて根札新居に故地ありと云増す故又
 右岸に跡ありて故地なり世に傳ふる中林にありて是祖を祀るなり
 四角ありて石に刻し之堂ありと云云杉を厚中林と改め杉八幡庵
 墓ありて石に刻し之堂ありて世に傳ふる中林にありて是祖を祀るなり
 以てと云云は昔世ありて根札新居に故地ありと云増す故又
 後より改めありて世に傳ふる中林にありて是祖を祀るなり
 故地ありて是祖を祀るなり
 因に古碑に十丈ありて石に刻し之堂ありと云云杉を厚中林と改め杉八幡庵
 墓ありて石に刻し之堂ありて世に傳ふる中林にありて是祖を祀るなり
 以てと云云は昔世ありて根札新居に故地ありと云増す故又
 後より改めありて世に傳ふる中林にありて是祖を祀るなり
 故地ありて是祖を祀るなり
 因に古碑に十丈ありて石に刻し之堂ありと云云杉を厚中林と改め杉八幡庵
 墓ありて石に刻し之堂ありて世に傳ふる中林にありて是祖を祀るなり
 以てと云云は昔世ありて根札新居に故地ありと云増す故又
 後より改めありて世に傳ふる中林にありて是祖を祀るなり
 故地ありて是祖を祀るなり
 因に古碑に十丈ありて石に刻し之堂ありと云云杉を厚中林と改め杉八幡庵
 墓ありて石に刻し之堂ありて世に傳ふる中林にありて是祖を祀るなり
 以てと云云は昔世ありて根札新居に故地ありと云増す故又

相功鎌倉御堂ヶ谷
 正位大納言兼右近衛大将右兵衛佐
 征夷大將軍 大日本總追捕使
 舊皇墓也
 於二廟前
 加茂長明
 草毛木毛塵キ三秋ノ霜消テ
 空キ苔ヲハラウ山風



源頼朝卿墓

場所 上同
 右大將源頼朝卿長男四日宮
 安永八年己亥二月 薩摩守羽林源重家
 再與美薩加侯命 東都童門親
 八十歳謹書
 寛正豊後守源忠久墓

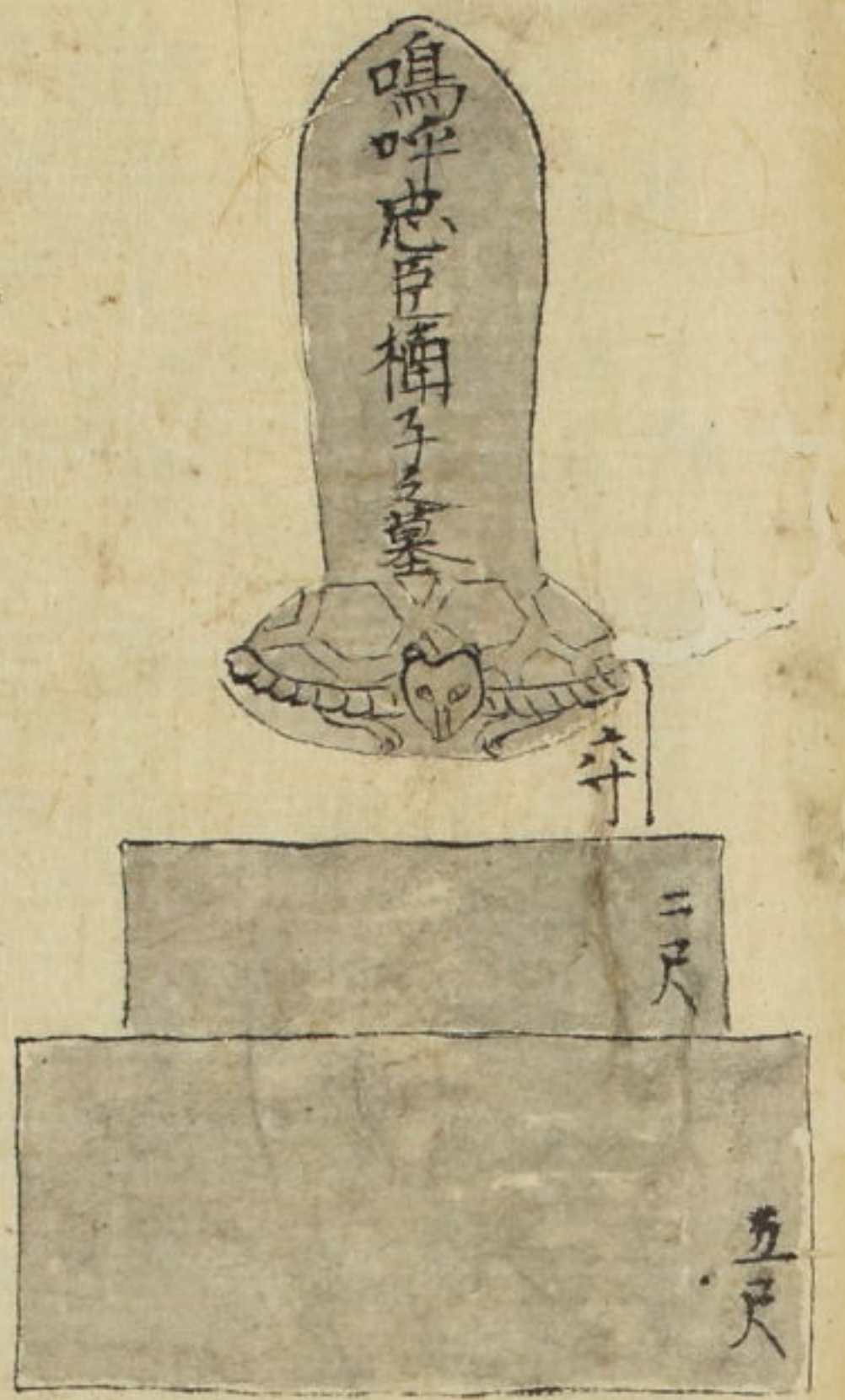


寛正豊後守源忠久墓

元祿四年水戸黃門源光國卿改造之今作碑銘

碑文

忠孝著乎天下日月麗乎天地無日月則晦蒙不日塞人心廢忠存則
 亂賊相尋于乾坤反覆余聞榘公諱正成者忠勇節烈國士無雙
 蕙其行事不可概見大抵公之用兵審強弱之勢於幾先決成敗
 之機於呼吸和久善任體士推誠是以謀無不中而戰無不克折言心
 天地金石不渝不為利回不害休故能興復王室還於舊都諒



埋石棺於碑下
 納圓鏡于棺中
 鏡徑尺二寸裏有文

榘正成靈
 源光國造之

前門拒狼後門進虎廟謨不藏元兇榜鐘構殺國儲傾移鐘聲
 功延成而震主策雖善弗庸自古未有元帥銘前庸臣專斷而大將
 能立功於外者卒之以身許國之死靡能飽觀其臨終訓子從容就
 義託孤寄命言不及私自非精忠貫日能如是整而暇乎孝
 兄弟世篤忠貞節孝萃於一門成盛矣哉至今王公大人以及里
 巷之士交口而誦說之不衰其心有大過人者惜乎載筆者無所
 考信不能發揚其盛美大德耳

右故河攝泉三州守贈正三位近衛中將楠公贊皇明徽士舜
 水朱之瑜字魚曾填之所撰勒什碑文以垂不朽

楠正成河內國任人号多門共衛 敏達天皇十八世楠正遠三男也
 智勇謀略忠肝義膽古今之良將也元弘建武之役 帝倚賴之莫
 功乃長子正行從四位上左衛門督三男正儀正五位上左馬頭
 父子兄弟三代忠臣良將也○先祖橋諸元公宅邊在楠大樹依之爲氏

永壽山海福寺

黃曆永壽寺
 深川寺町



九層石塔 武田信玄所持 土屋氏寄附
 總高十一丈余

茅葺ノ雨除アリ

浅井多麻郡柴崎村

普濟寺石幢全圖

二面二
二面二
四角
頂弥
四角

延文六年辛丑七月六日
施財性不立道山刊
トアレトモ此年号ハ後
影舟タルモノナリ至テ

ノ古代ハ物ニミエ

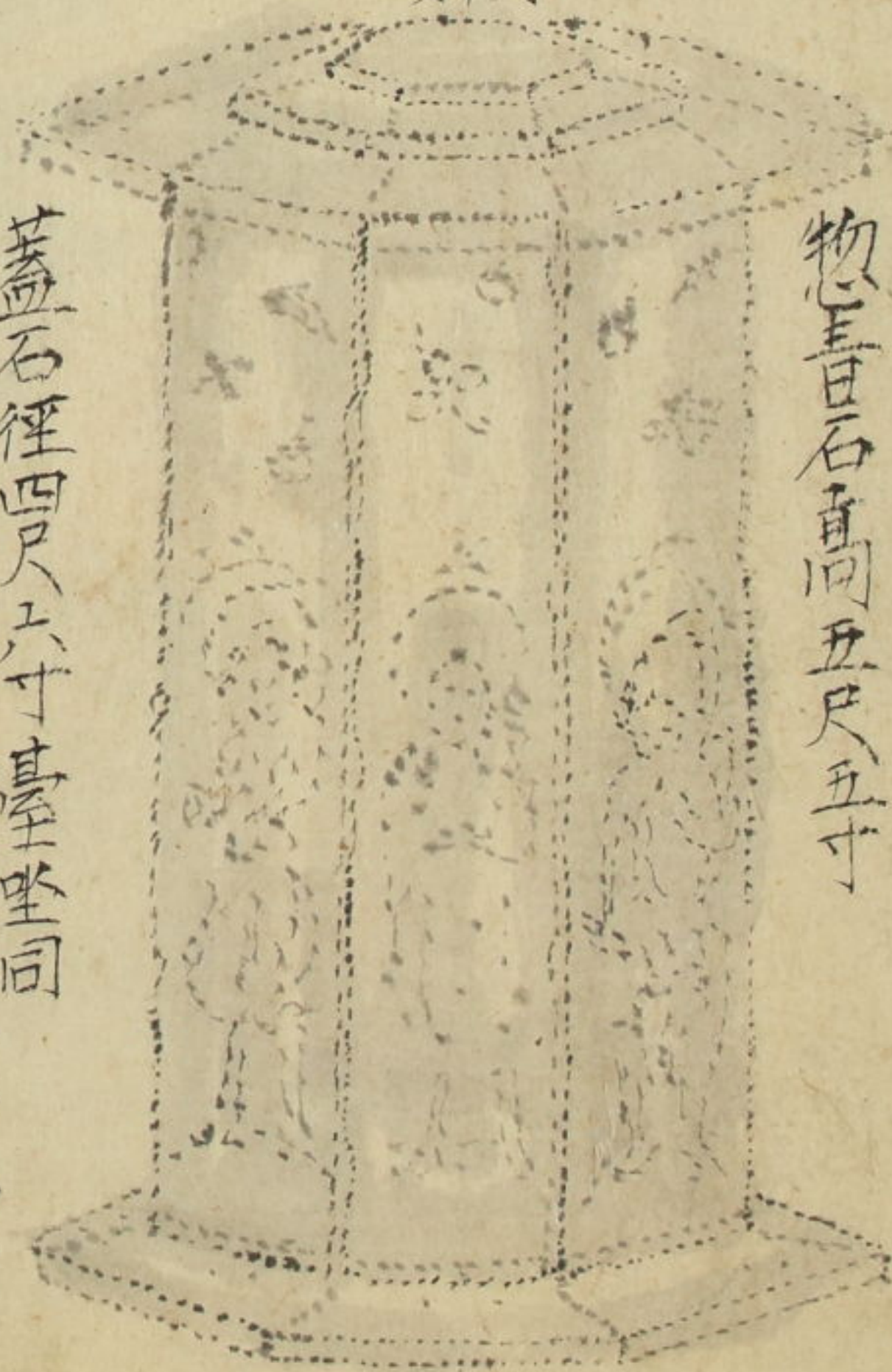
清王阮亭池北偶談岷山幢

宋人題名ノ條ニ云襄陽岷山羊公祠右石幢一枚凡六面高六尺

此ルイナルハシ

甲列街及日野町多麻川原橋自前三川村と云往東ハ
右ノ多入十丁初ノ自望ノ長八里

惣書石高向五尺五寸



蓋石徑四尺六寸臺堅同
蓋基共一枚石也六面共積三尺四寸

蒲櫻

其葉ノ掩フ根リ
又計ノ樹ノ西ニ又計

左右江三間計花ハ一重ニテ
山櫻ノ如シ



武藏国足立郡
石戸村堀之内村

江戸ヲ去リ又十二里ナリ

中山道桐川驛ノ西北

ヨリ西ニ入テ下石戸ニ至ル

又屋津ニ至ルリ又諏訪ノ

市場ニ至リ堀内ニ至ル也

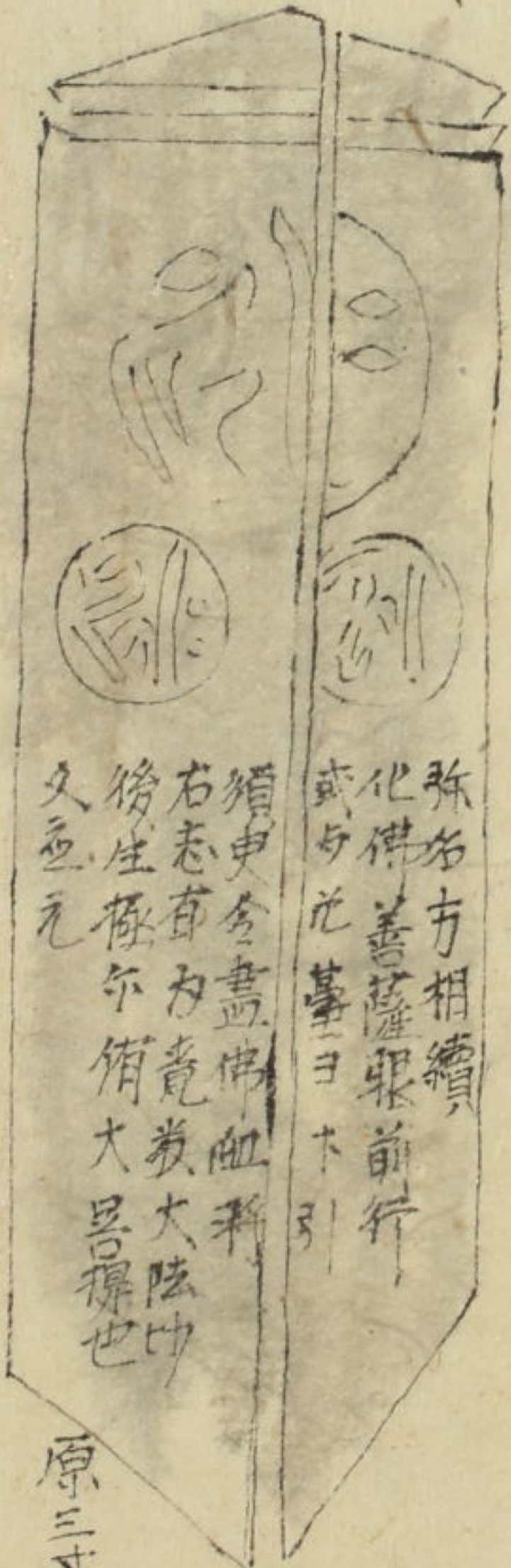
桐川ノ上方ヨリ堀内ニ至リ

路程二里也

樹下ニ在範頼朝臣石塔初

古碑十五本

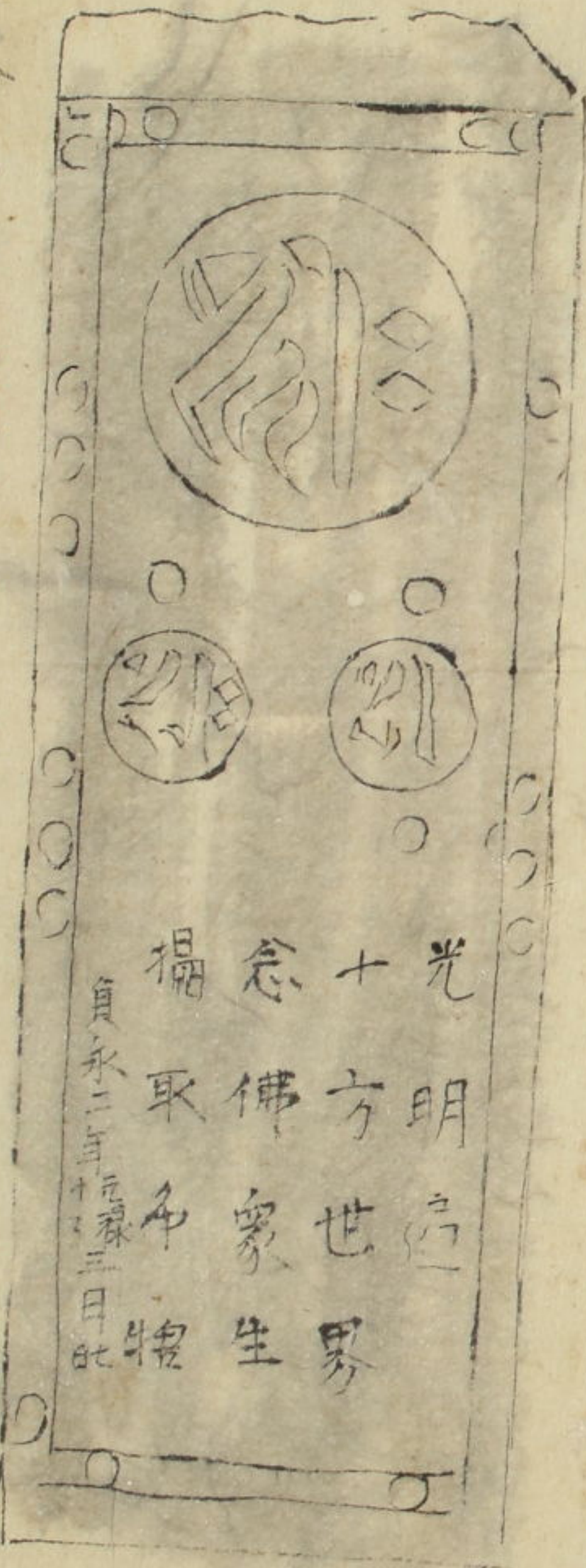
文應元年庚申年人皇十九代
 龜山帝御宇稱軍宗尊親王
 時代今文政二己卯年二至ソテ
 五百六十年ヲ歴タリ
 堅五尺六寸 横二尺五寸



殊名方相續
 化佛菩薩張前行
 武分此墓ヨ下引
 須史全畫佛血科
 右志有内竟教大陸中
 傍生極尔俯大呂攝也
 又五元

原三寸余

堅五尺八寸
 横二尺一寸



光明
 十方世界
 念佛象生
 攝取布體

貞永二年三月廿一日

貞永二年癸巳年人皇十五代 堀河帝御宇稱軍宗尊親王時代 五百十八年



大樹櫻ノ根
 二間半四面ニ
 垣籠ヲシタリ
 其内ニ涌殿ノ
 墓古碑アリ

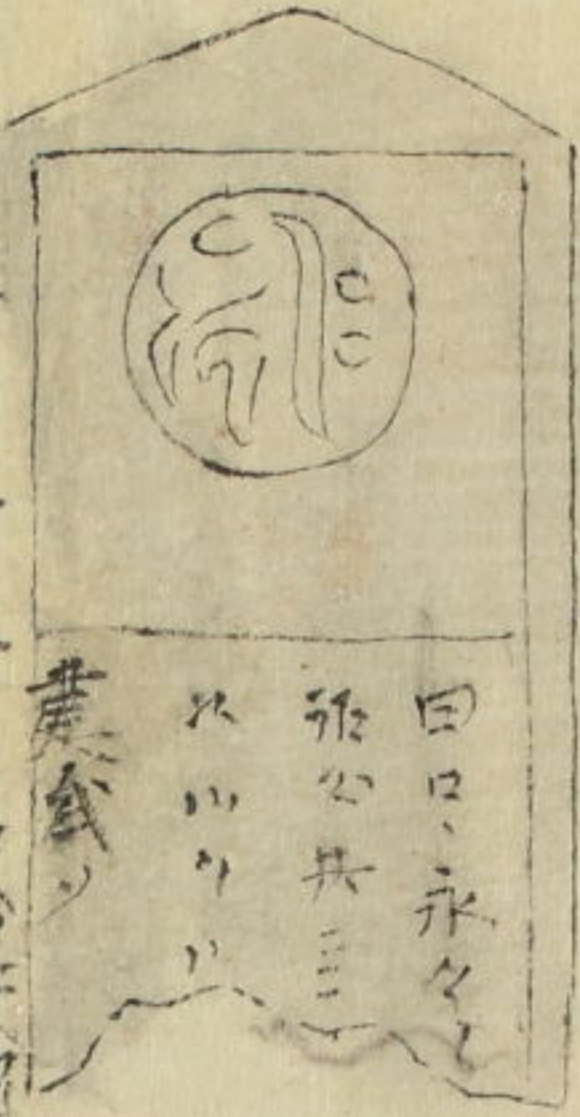
豎六尺
橫一尺五寸



弘安元年三月二日

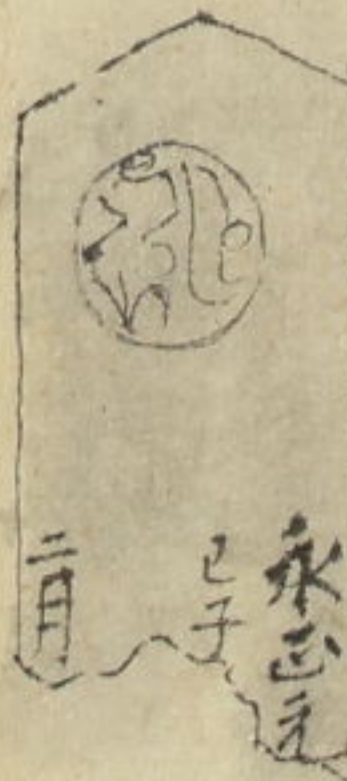
弘安元戊寅年入皇五代 後宇多帝御宇 將軍惟康親王時代 五百四十二年

豎三尺五寸許 橫一尺五寸許



建武 御宇將軍護良親王 四百八十六年
人皇五代 後醍醐帝

豎一尺許 橫八寸許



永正元年甲子年 人皇百五十六代 後柏原帝 將軍足利義植 三百十六年

松平和而侯 領武藏國
入間郡川越

文政六癸未年二月 函山
畑成名權地出入 則建高 聞其圖

如下 歲數自保元元卯
年至文政六癸未年 凡
八百六十七年 可其舊感

考往古公卿不可有
居住又左近 墓地可納
經地成力 猶又後人
說待而已



○文治元年辛卯年二月...
 文治元年辛卯年二月...
 文治元年辛卯年二月...
 文治元年辛卯年二月...

人皇百廿六代
 後光嚴帝御宇武將
 足利尊氏將軍時代自
 曆百應四年至文政四年凡
 五百六十七年

人皇百廿七代
 後小松帝御宇武將足利
 三代義滿將軍時代自
 至德三年至文政四年四百六十七年



同帝御宇武將足利
 四代義量將軍時代自
 應永三年至文政四年凡
 四百三十六年

人皇百廿八代
 後北園帝御宇武將
 足利五代義教將軍時代自
 代自嘉吉元年至文政四
 年四百三十七年

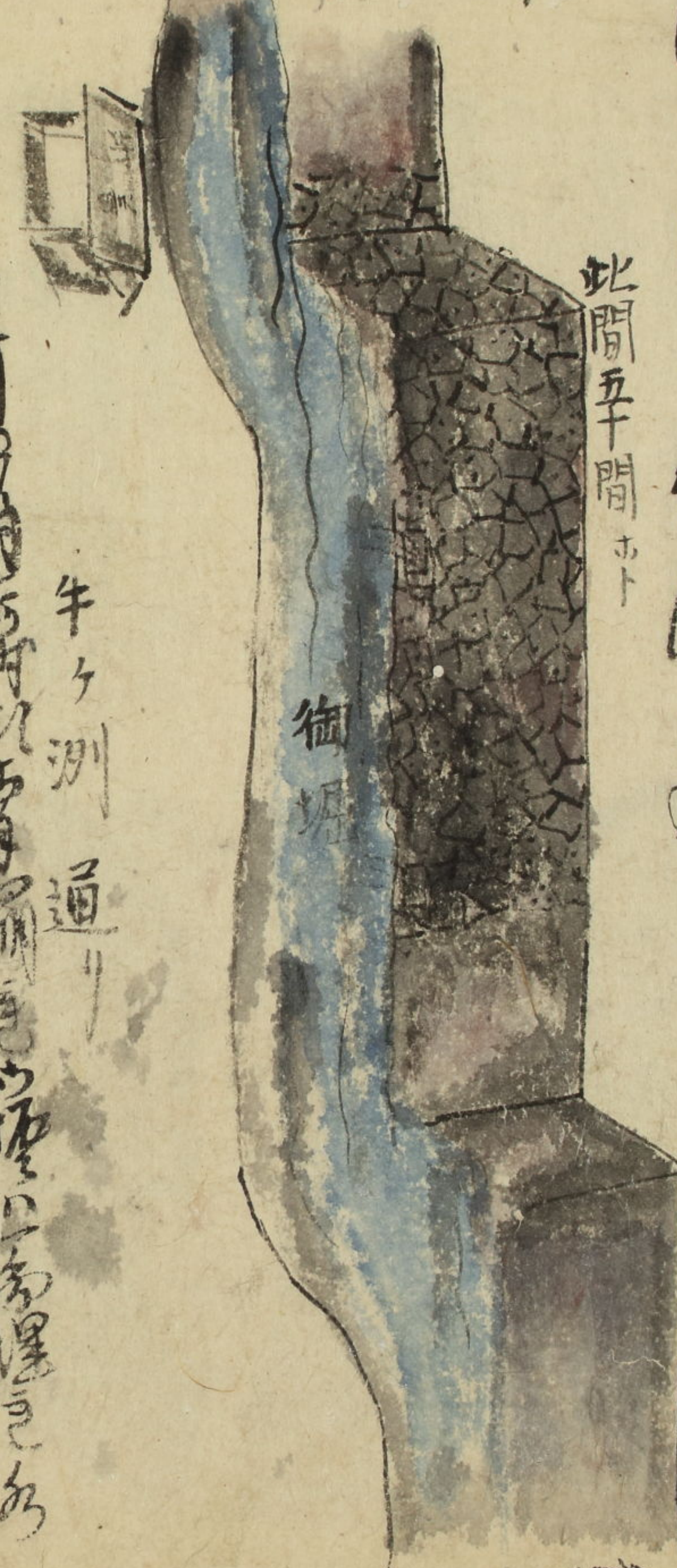


同帝御宇武將足利
 七代義政將軍時代自
 寶徳三年至文政四年凡
 三百六十七年



古くは... 寺社... 御堀... 此間五十間あり

御堀



三月... 御堀... 此間五十間あり

御堀

寛政五癸丑年正月十九日

出所銅鐘之銘曰

大三尺龍頭寸五分
指渡貳尺壹寸



敬奉治鑄銅鐘

大日本国 東列下總 第一鎮守
葛飾藩 是大菩薩 傳聞寛平
宇多天皇 勅願社壇 建久以來

又

右大將軍 崇敬殊勝 天長地久
 前横臣海 後連遠村 魚虫性動
 鳥鐘曉聲 人獸眠覺 金磬夜響
 永除煩惱 能證菩提

元亨元歲 醉十月十日 願主右衛門尉元子真吉

別當法印知山

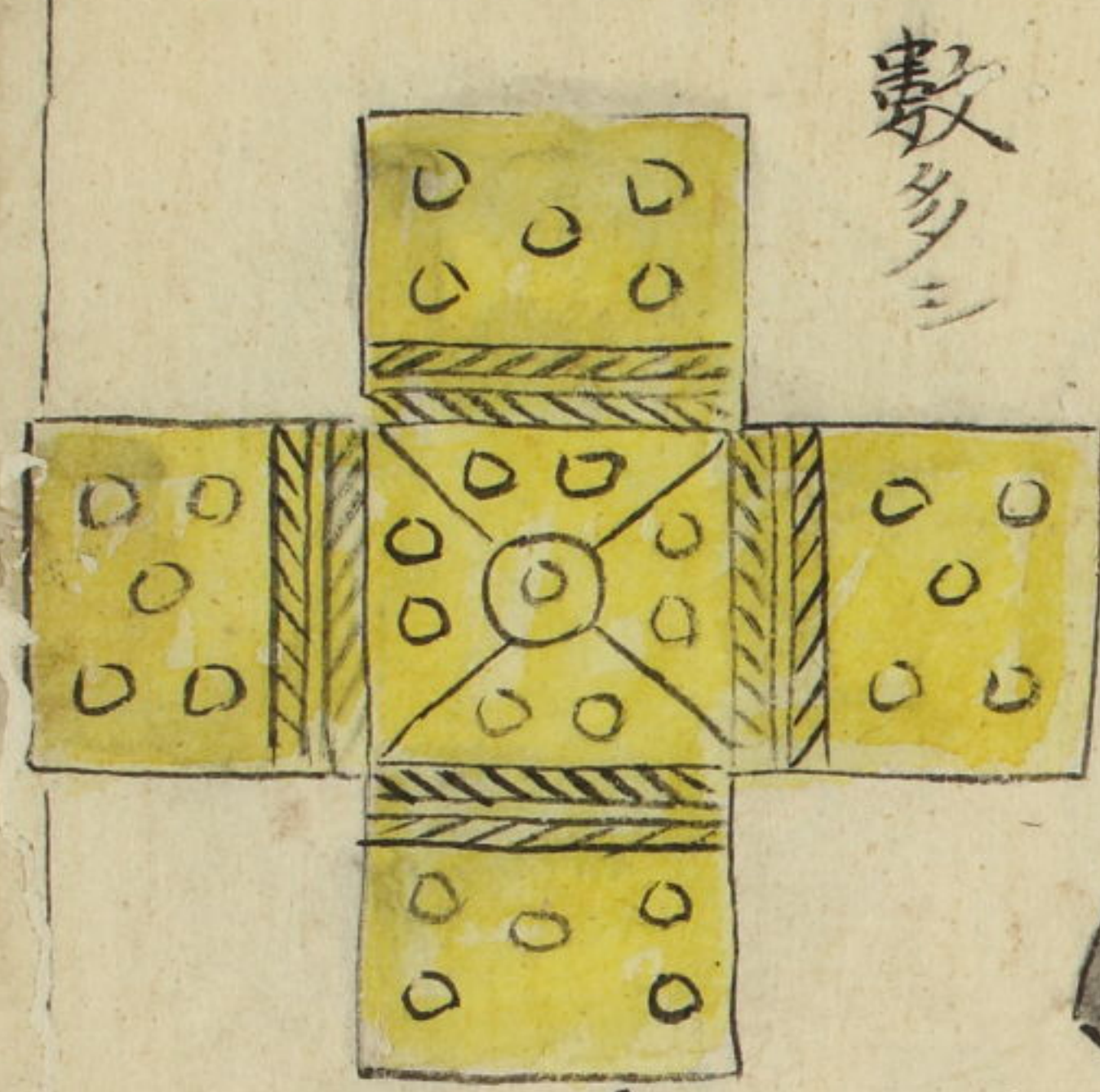
下總國葛飾郡八幡郷

別當

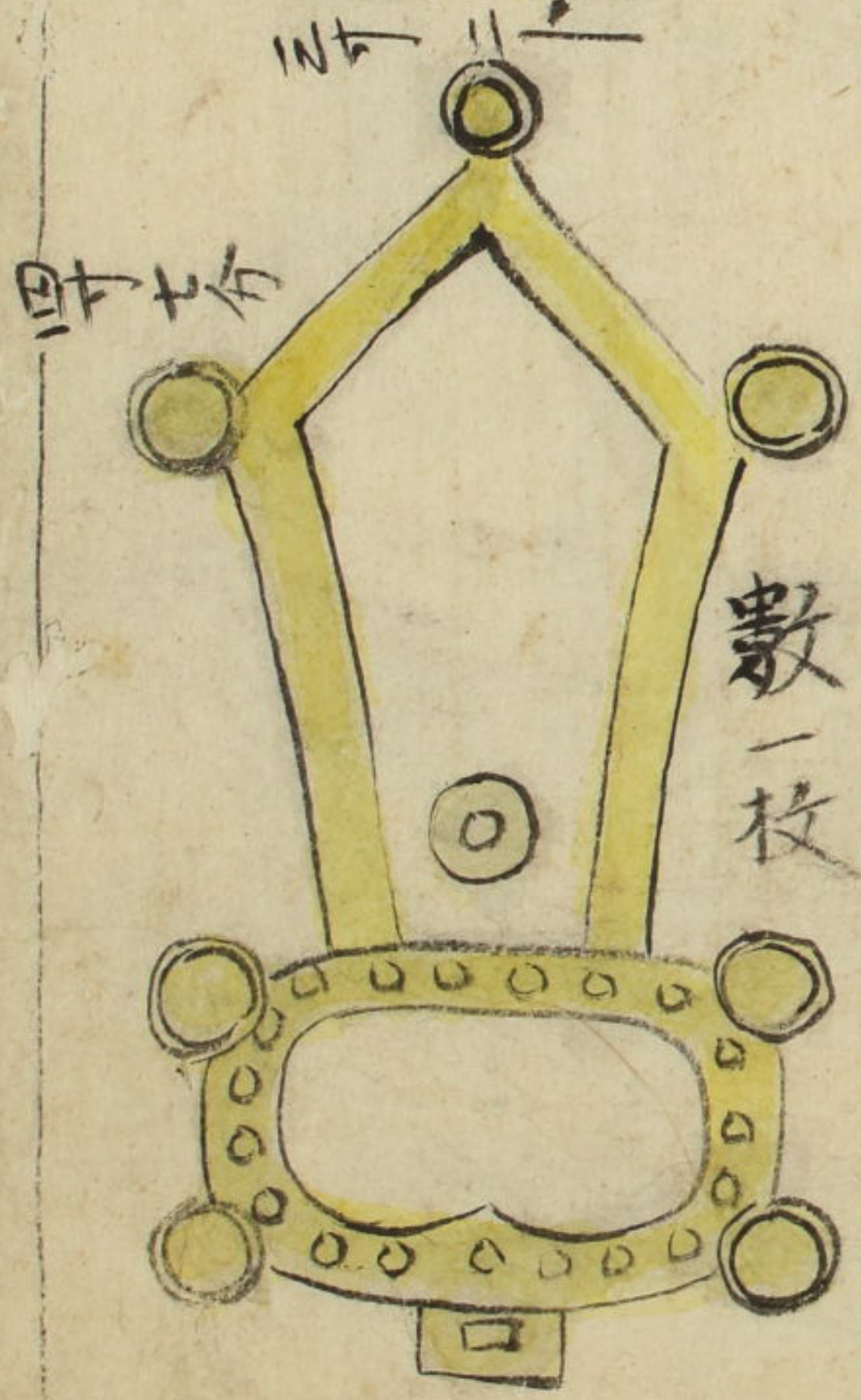
法漸寺

自元亨元年至寬政五年
 四百四十八年二成也

上列馬形佛後回村ニテ其師塔ハ幡塔老岩塔ト
 名アリ山アリ在る方見多ク越ル中刑親御平ノ如ク
 長サ五倍方塔ニ倍方寺并交平ノ山ツリ某師塔ニ
 物アリ木アリ曰村死老方此住居方某寺人又百相
 中佛氏其如心ノ告ニ倍テ方和ニ倍矣四月寺塔ニ
 石枕多ク一甚ク明ケルニ某師佛并并ノ下合佛并并
 院隔隔隔隔隔隔ノ數名モ知レズ而ツリ寺後
 幡塔地ニ寺下ハ幡委令脚方方澄知れ妙能
 公儀ハ某寺ハ此ニ寺切ニ政也寺位也
 右源為之某新ハリ

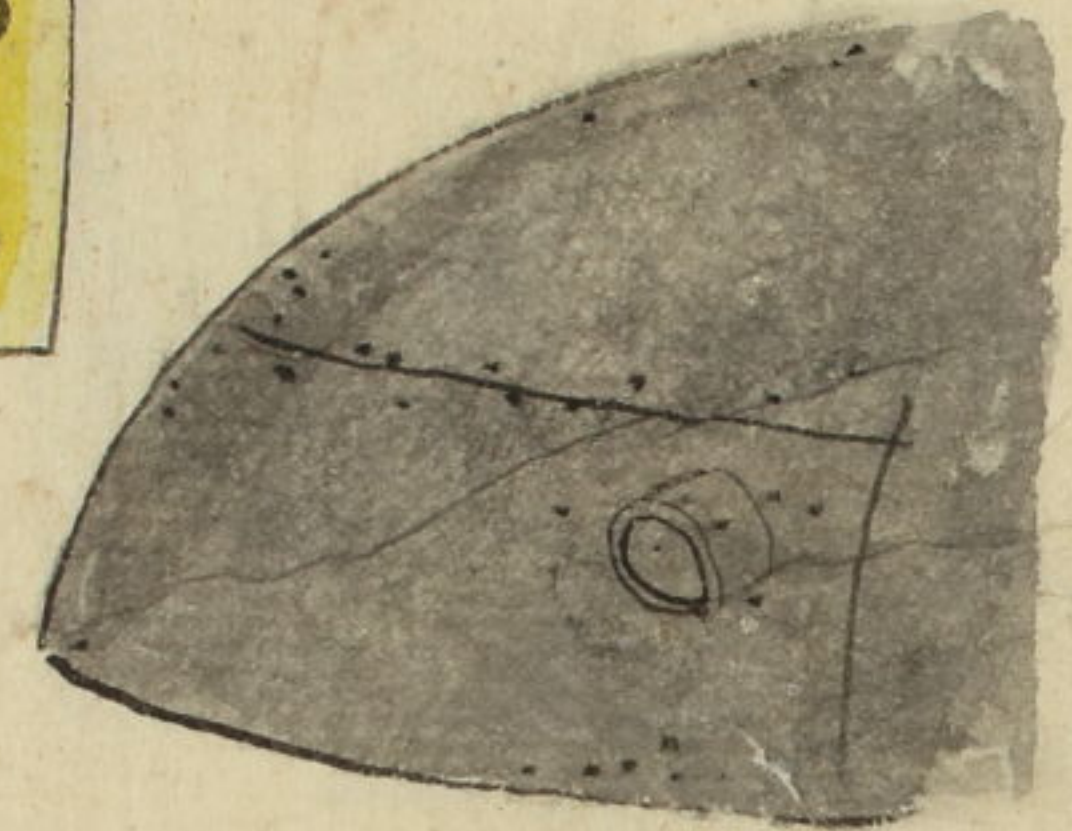


數多三

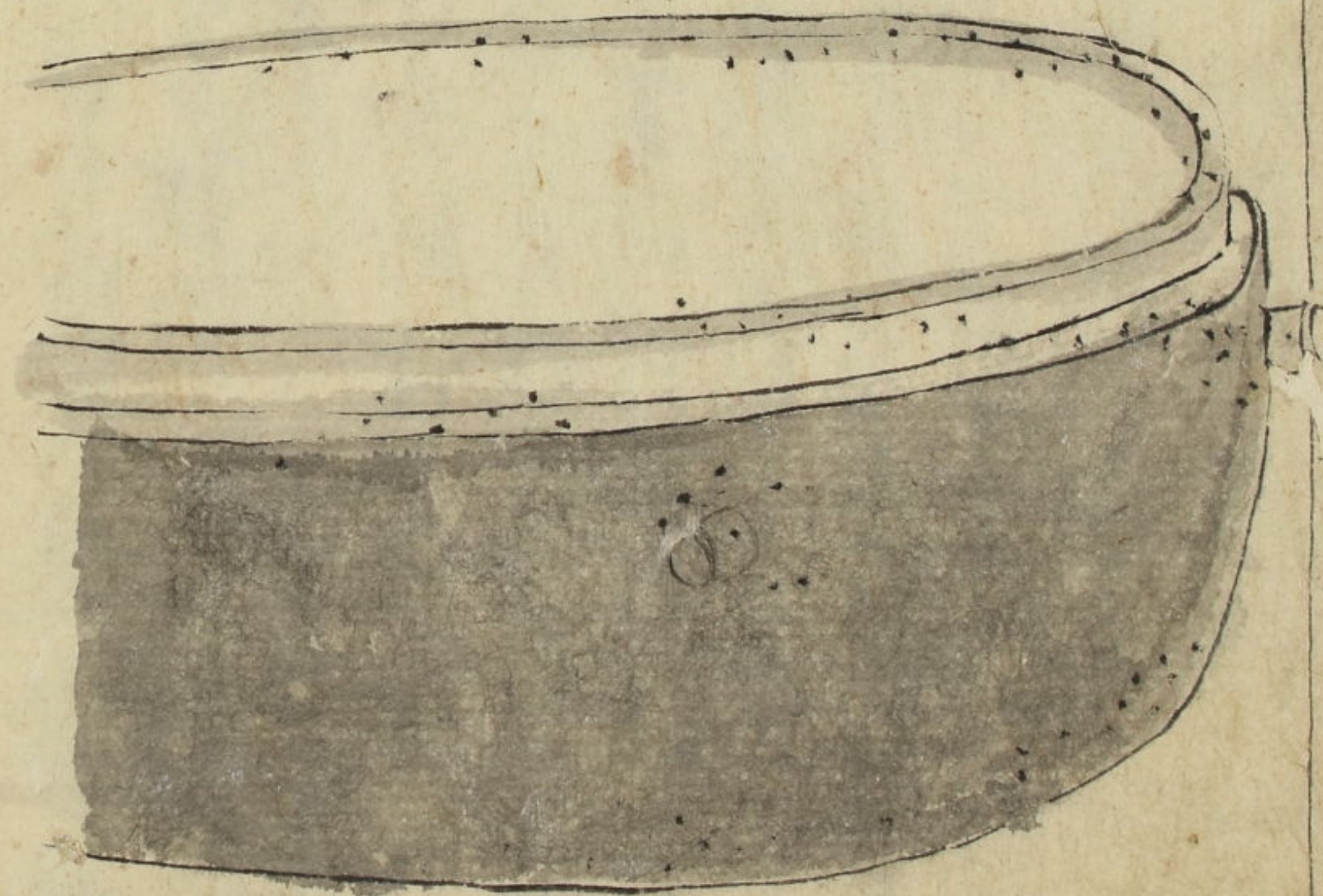
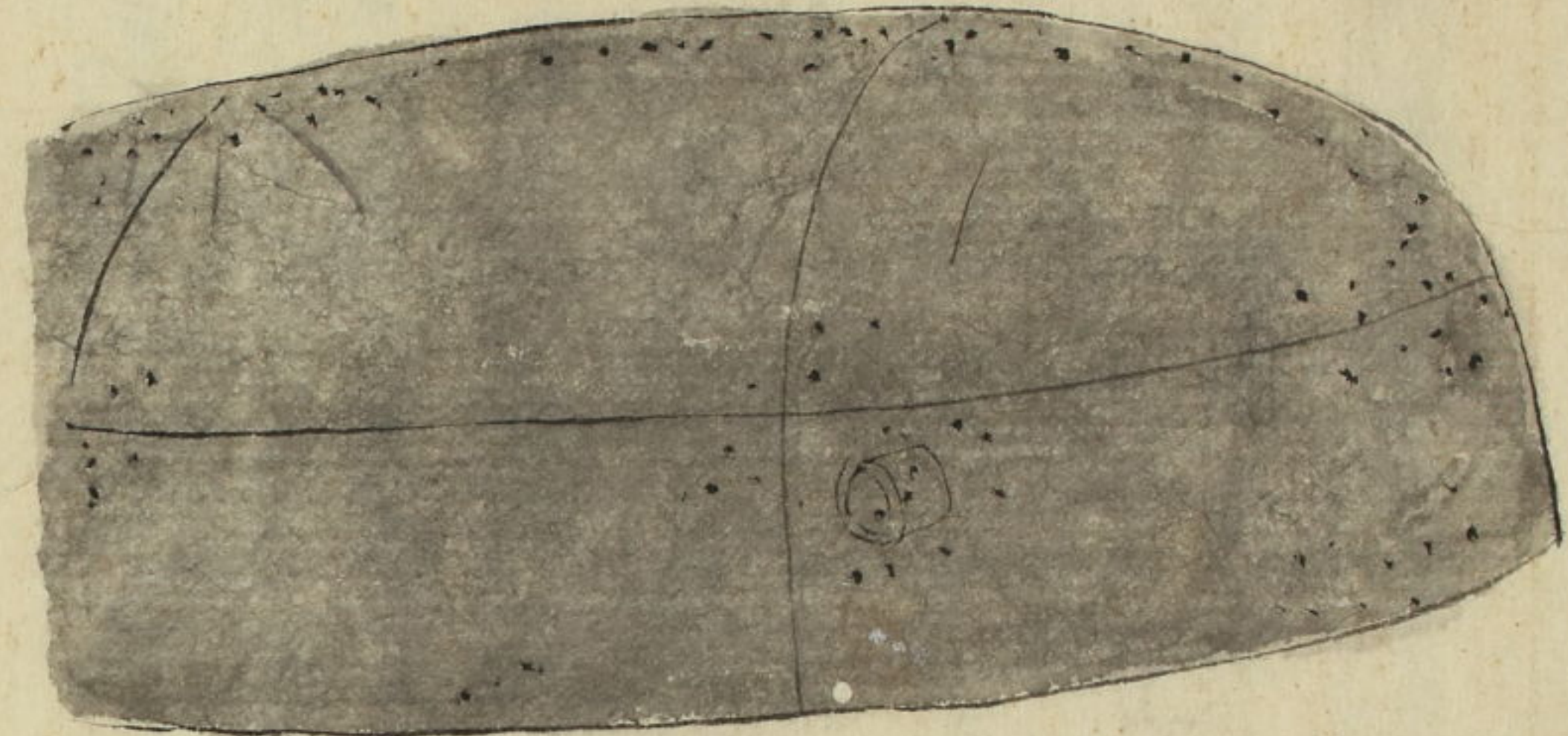


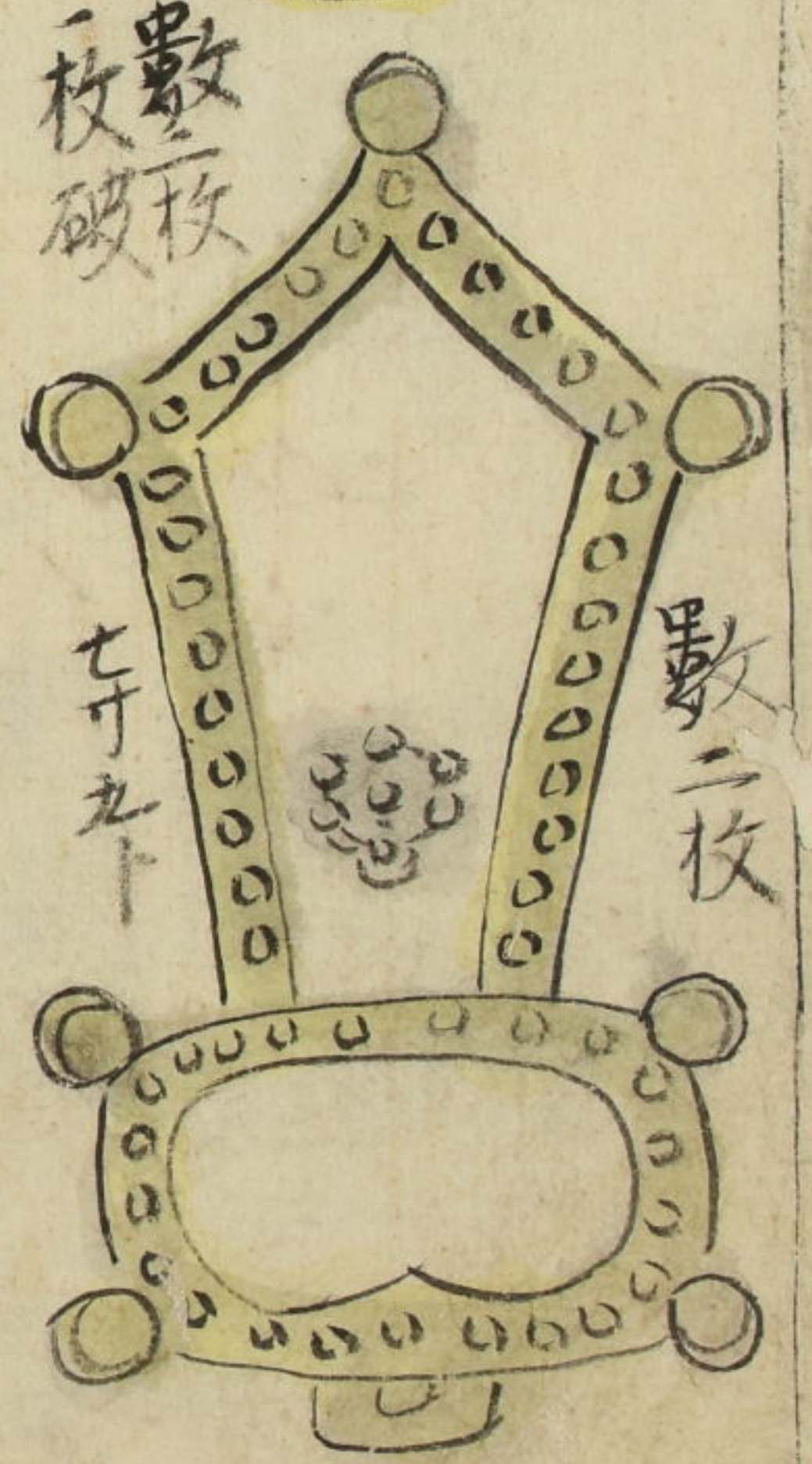
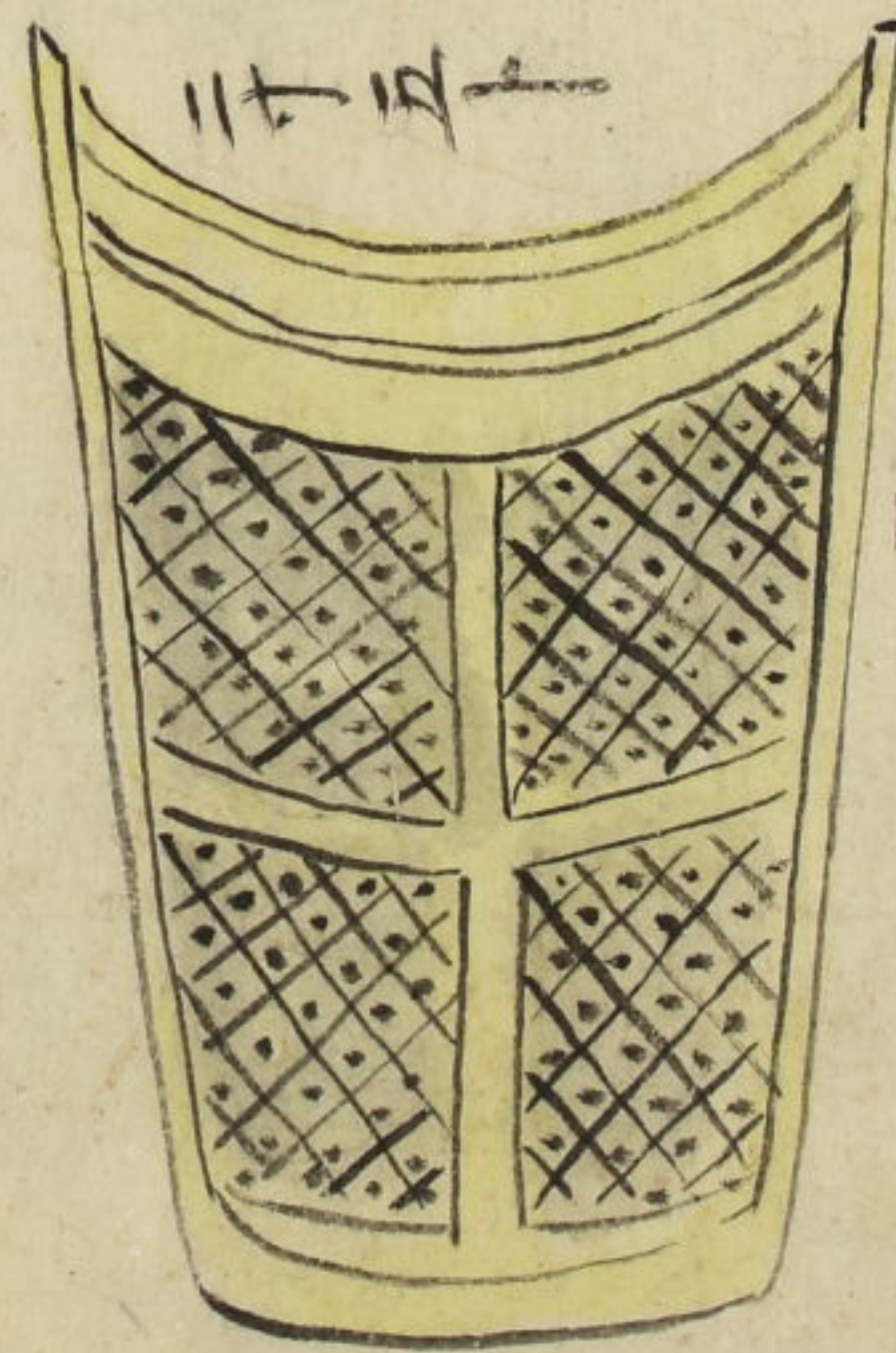
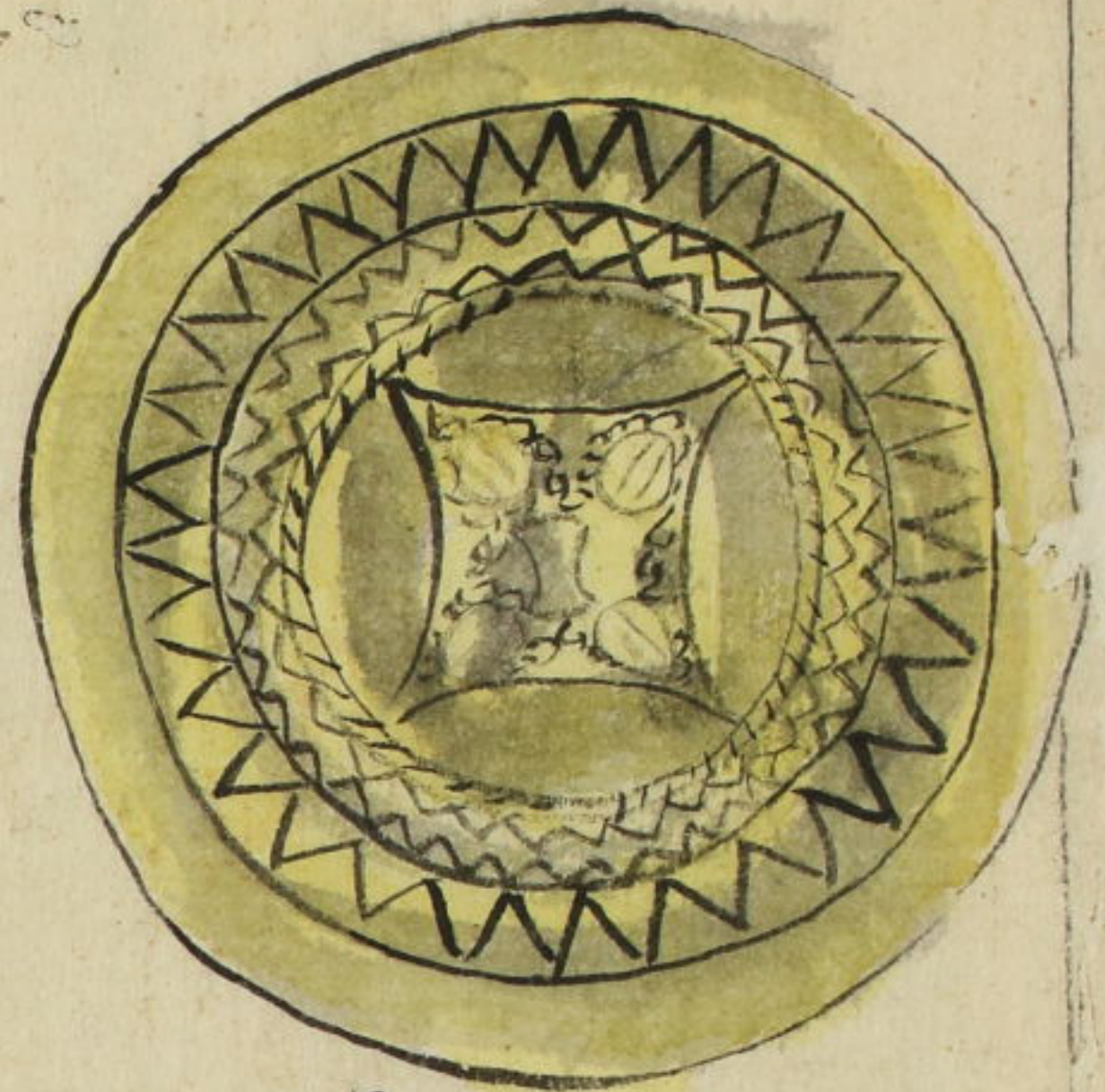
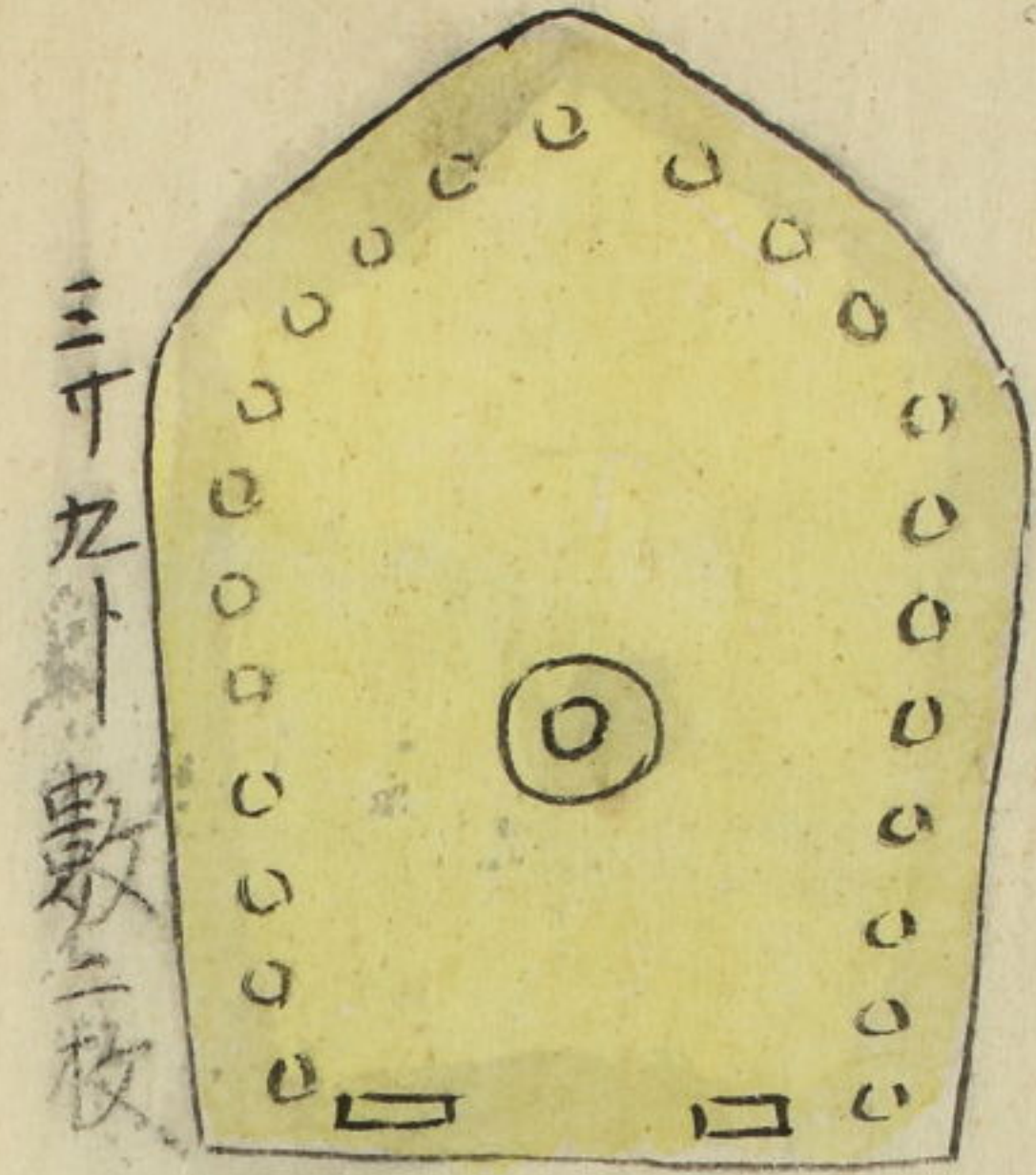
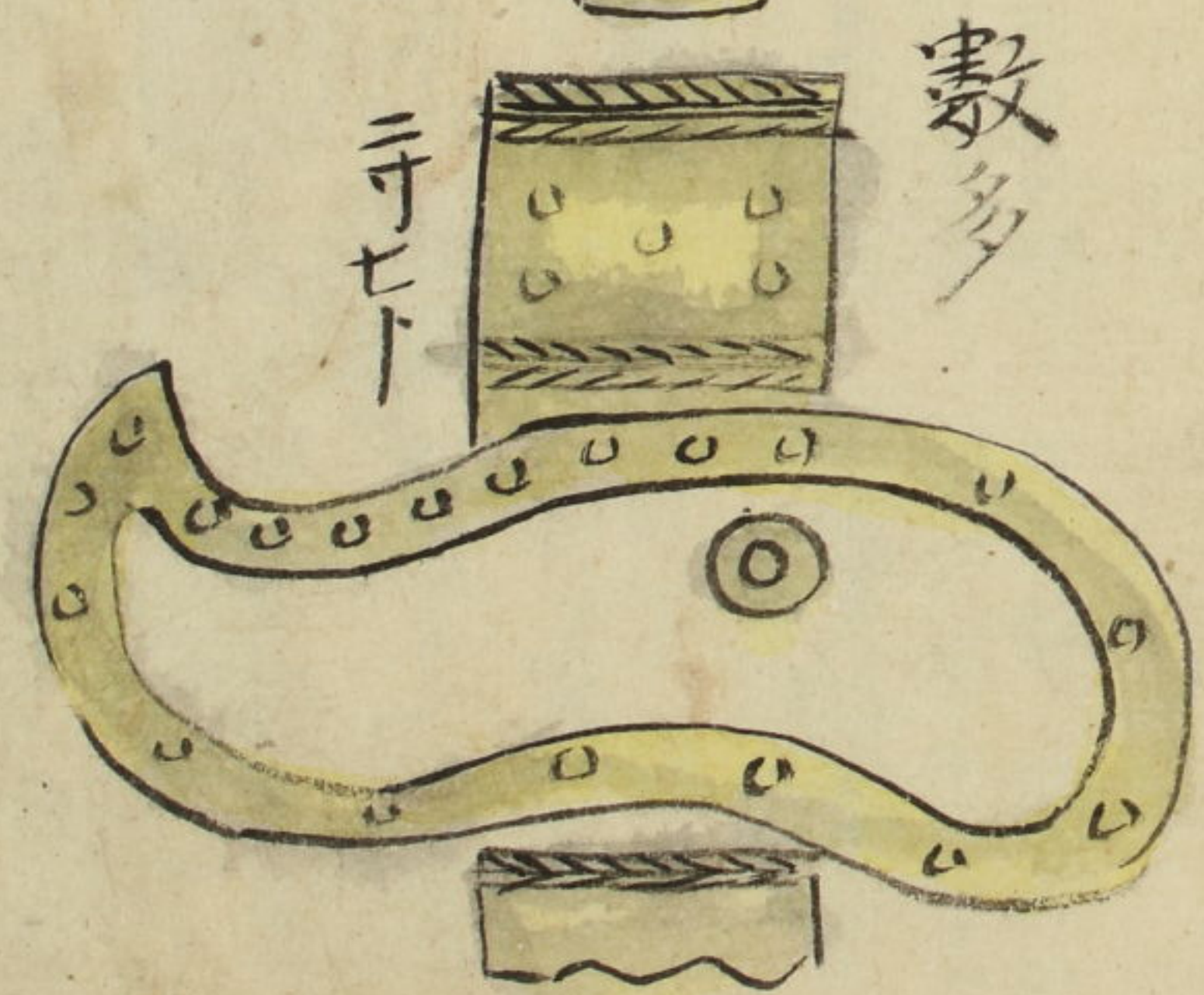
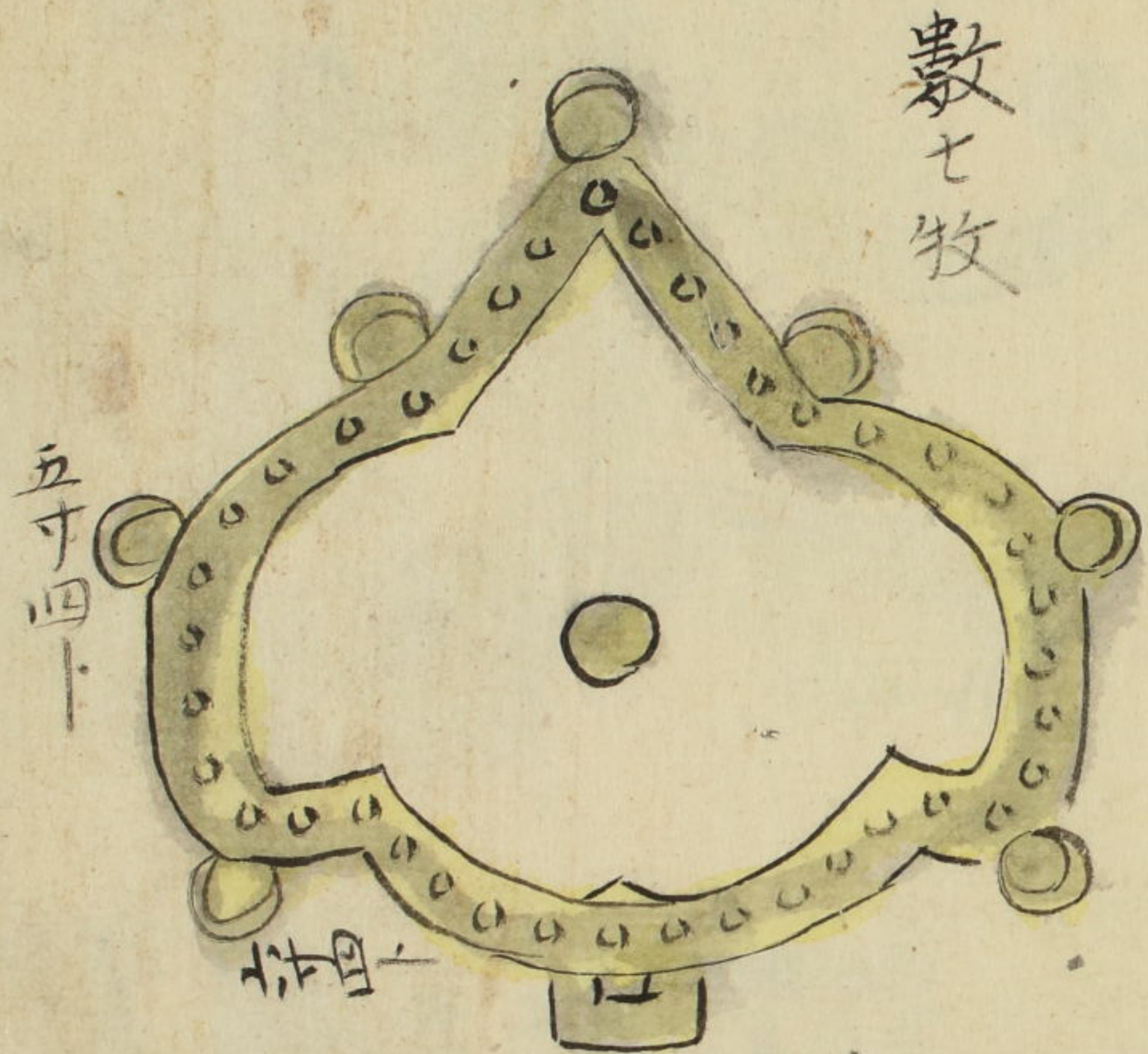
計七分

數一枚



長九尺
高四尺五寸
但蓋下七
橫四尺

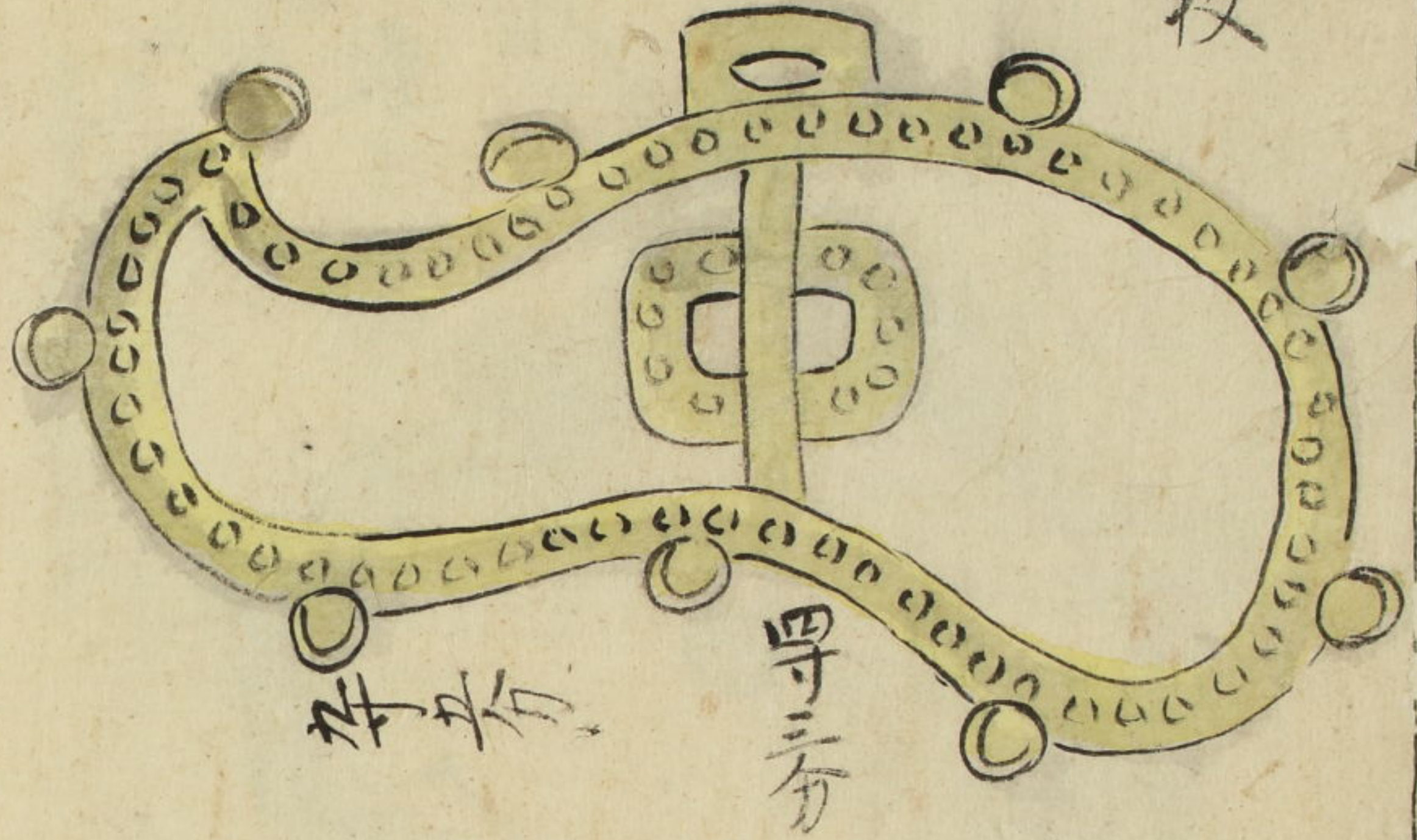




四寸

INT N 一

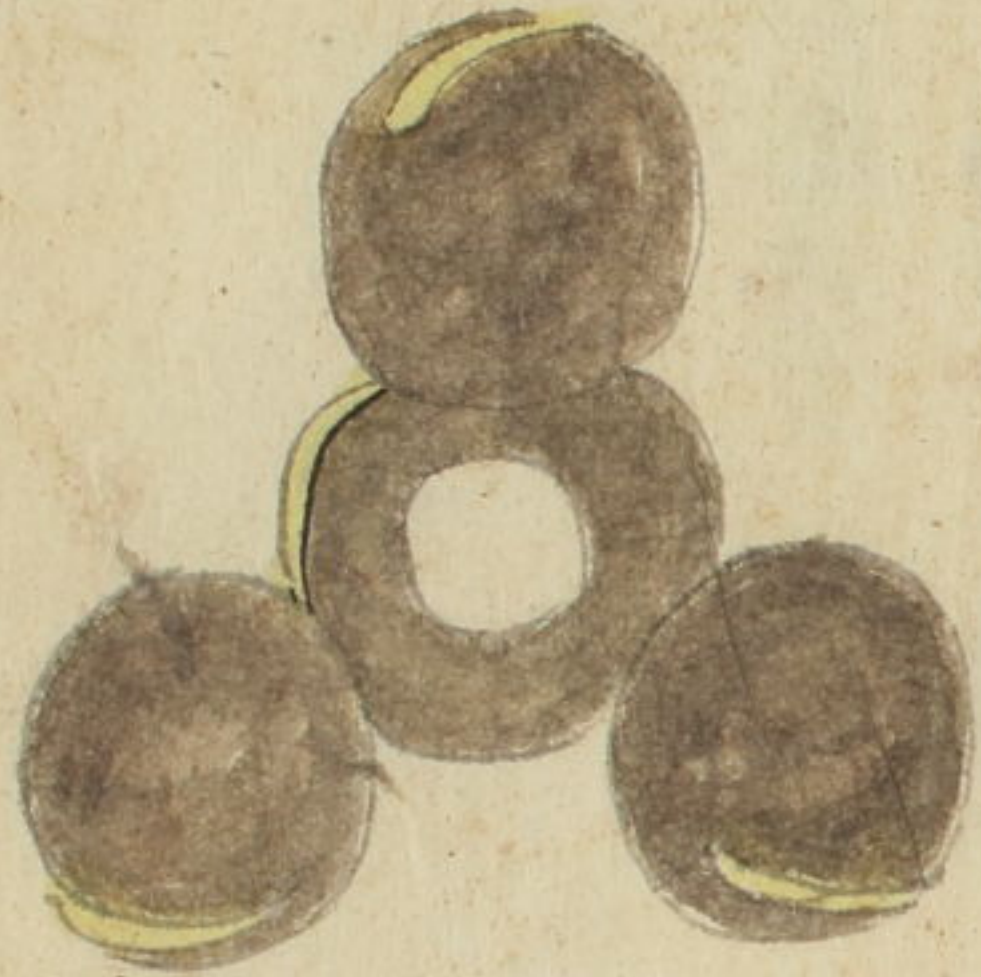
數二枚



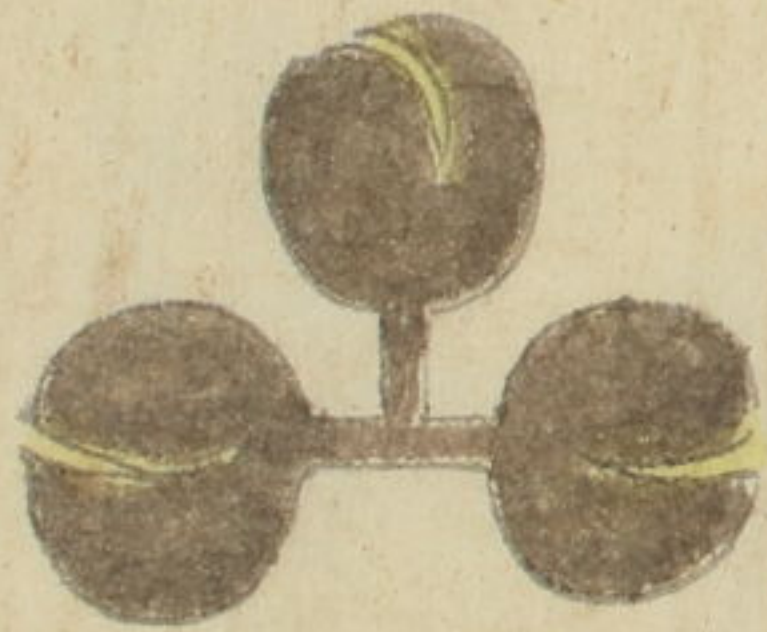
但何し七〇如圖直三寸如鈴
如唐銅ニテ金象眼ノ模様
金ノ色極古代ノ位ニ相見
但厚さ寸二三四分位七〇ト云
友山姓現見之秘藏書
木村氏送予爲喜祝而
寫之
所支致九 武秩仲旬日

古鈴 舊器之部

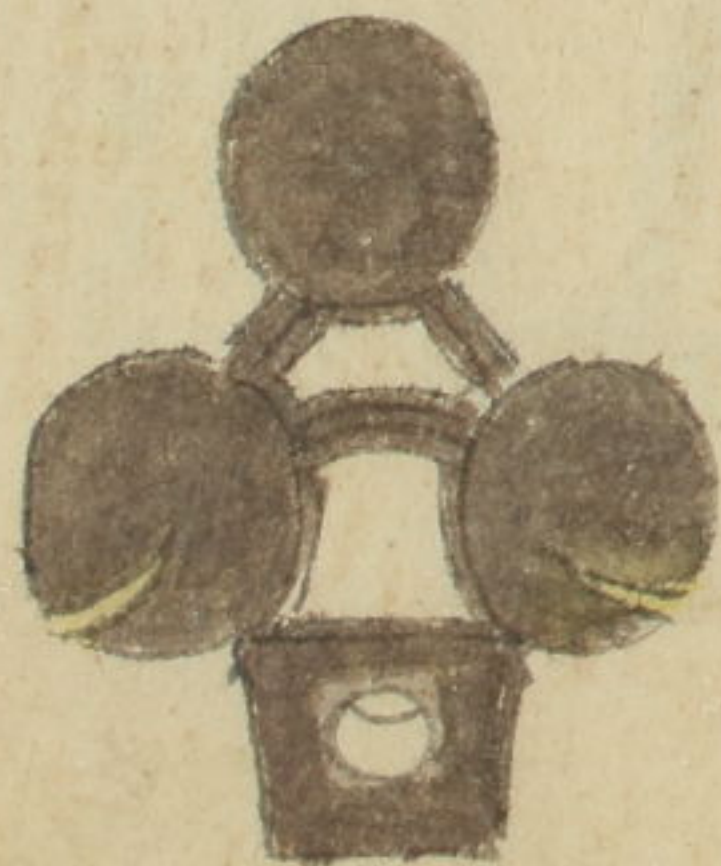
和泉國大鳥部百濟邑ヨリ
享保年間堀出此所土師氏
祖野見宿禰宅地ト云然ハ
其時ノ旧物可成
風竹草金子氏所藏



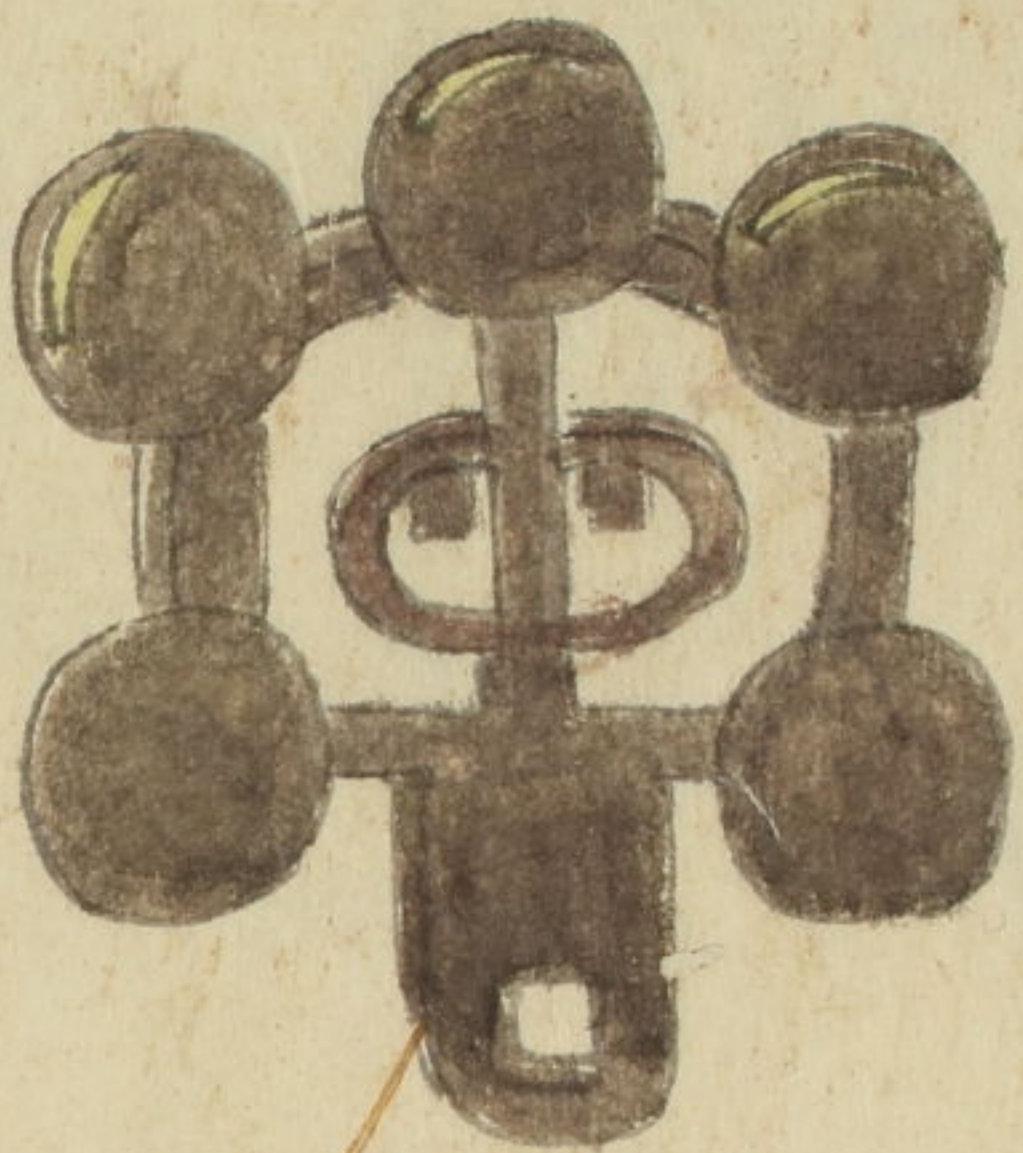
神武帝十種
神宝浪花座
摩多受
太神宮神宝
此禮鈴



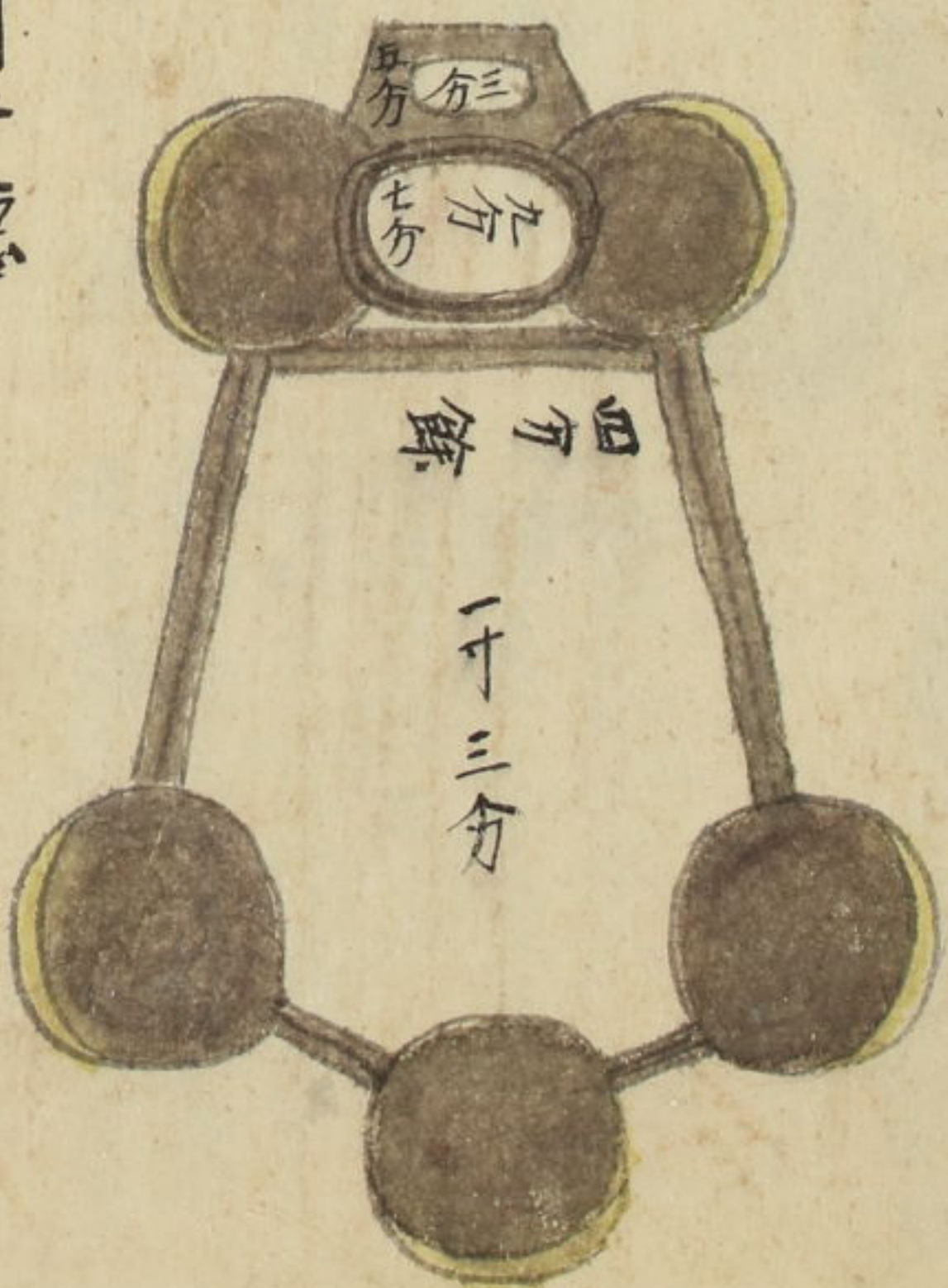
五十鈴ノ境内出ヨリ
堀出守承ノ未蓬萊
太夫草木田尚賢元ヨリ
木居翁江送
鈴屋ノ重宝是ヨリ
鈴屋ヲ以其号トス



古鈴左所不知圖傳也



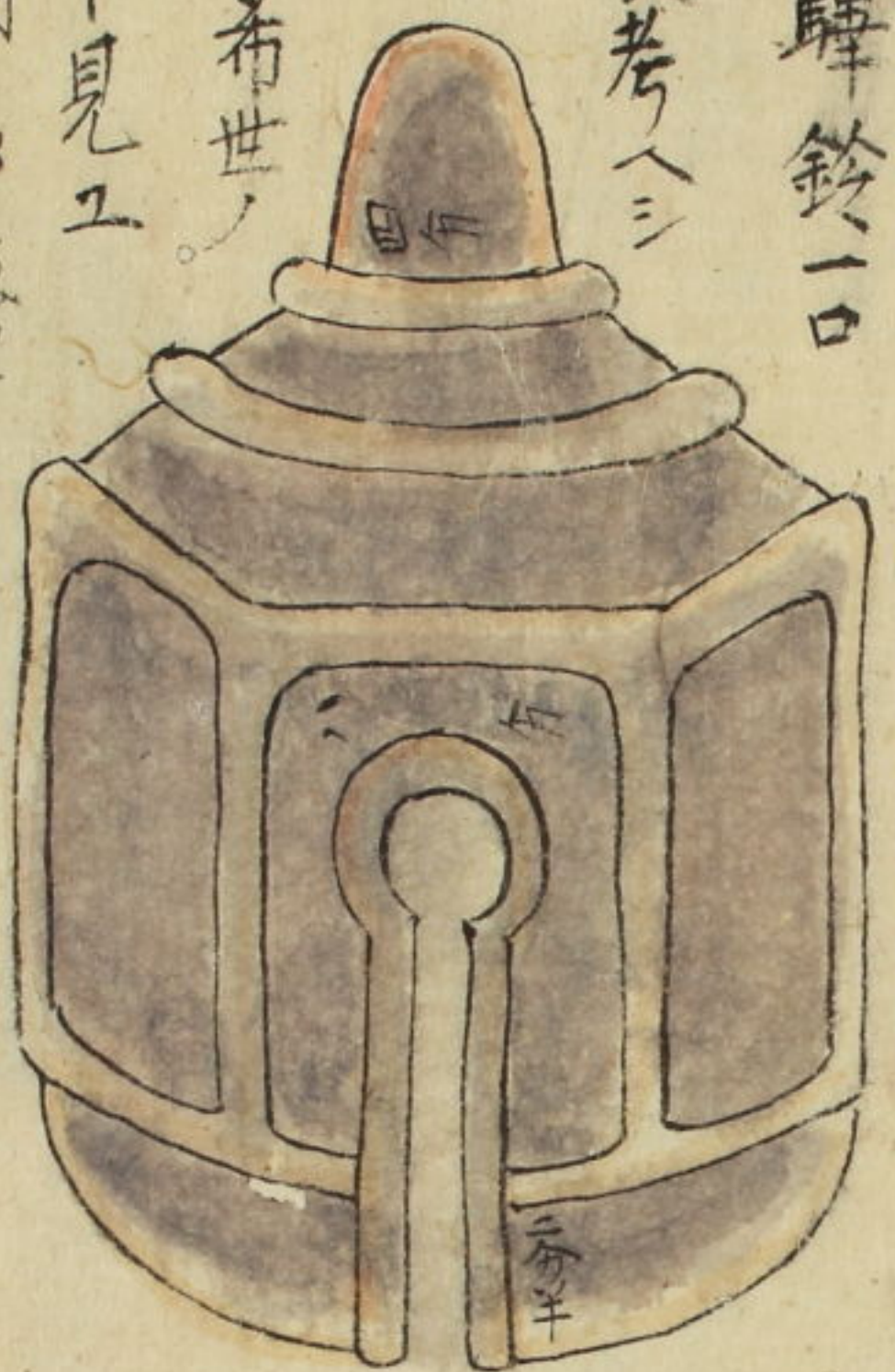
下總國^{ナガト}周集郡^{シラ}負元村^{タモト}神將寺
土中所出^{或ハ作準ニ和名抄ニ作鐘}
ニ字スエトヨヤシム



白
一十三分

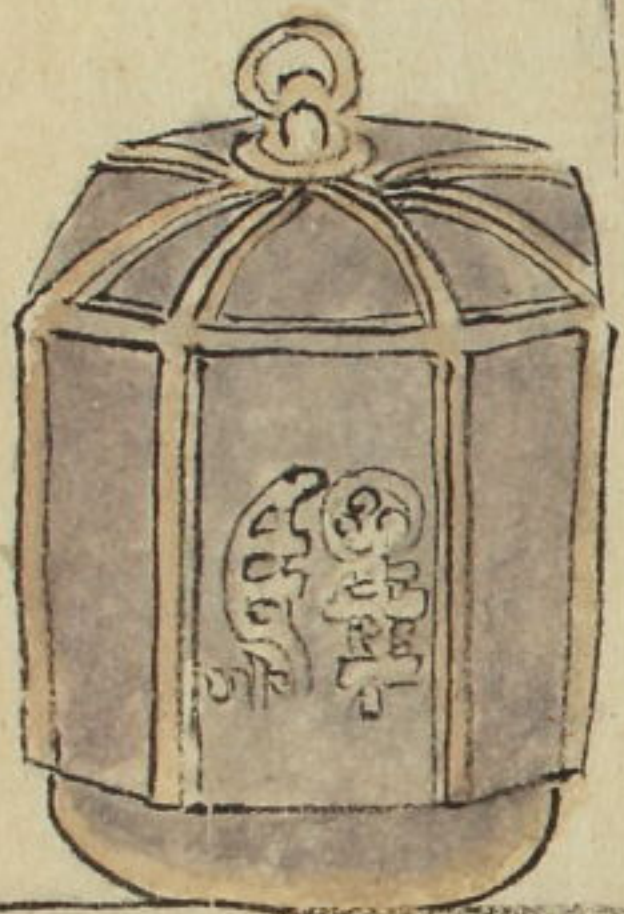
同国行徳
善照寺ニ同物白鈴所藏又

好古小録ノ隱岐国若玉酢神社傳ル所
八枝ノ驛鈴一〇



古制衣考ヘシ
海見ニ希世ノ
珍也ト見ユ
日曜チ納メテ置ル故ニ
陽崎ノ多摩川ニ流ルハ傳ヘシ
釋迦ノ乳陰ニ入ルルニシテ

六枝驛鈴禁秘抄
所物
成澤寛經抄本
利本木大如圖



讀岐国多度郡陶村三好氏所藏

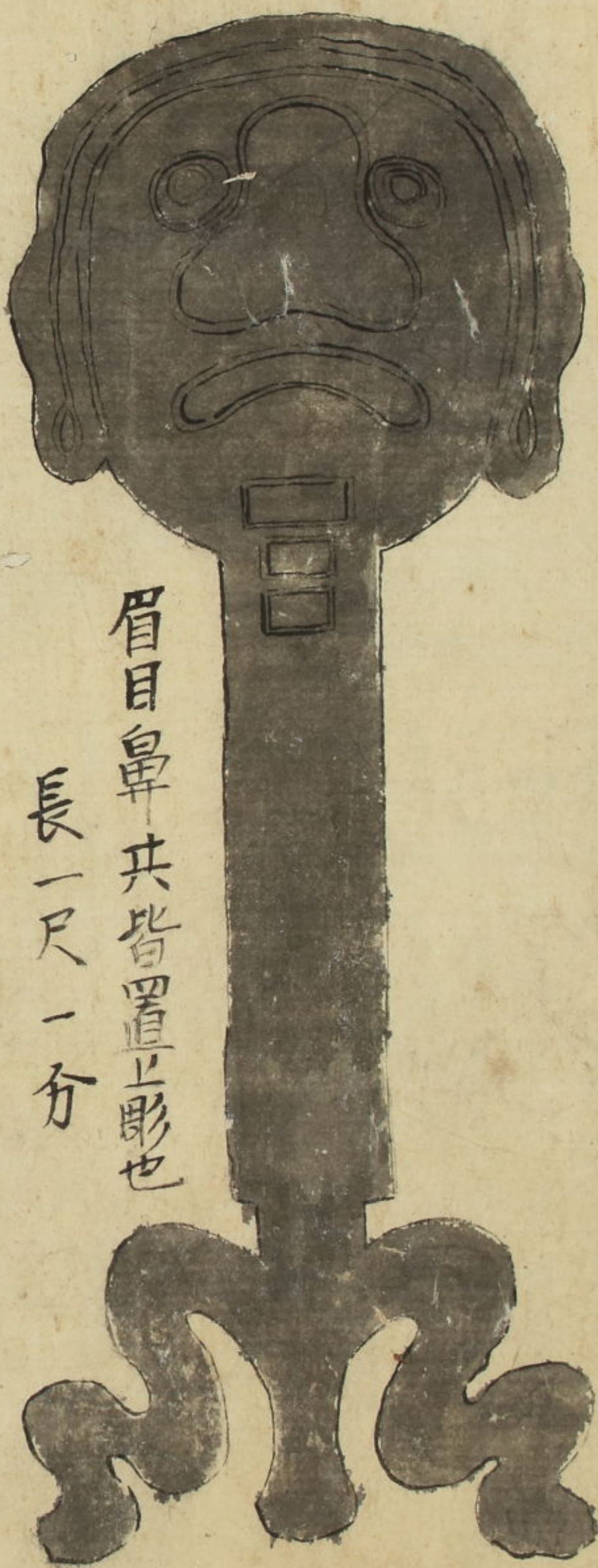
驛鈴^{ニ字} 曾家書

信亮去チ少ノハ
刻數之目ヲ見ル
故也
二ハ別物也
今之字ヲ知ル



禁秘抄ニ鈴印同俊實通俊曰件鈴太
有興物也或六角或八角五分ト見ユ六角
ト六角之謂ナルハ八角ハ八枝ニテ前ノ圖
ノ如キナラニ好古小録ニ六角鈴利本三位
草本世ニ傳ハルト云云者是ナルハシ

驛路鈴



眉目鼻共皆置上彫也
長一尺一分

常陸國鹿島大神之神宮寺正等寺什物也
昔朝敵退治之節賜大將軍第門驛路鈴事在曆書
又曰勅使及諸卿任國下向時此鈴子賜事見江夕リ

方寸七

是蒙城古刀宋宣和五年郭僕
為真家所蒙城今村人得之田中
柄端有方寸七三字彷彿隸書背
右方孔不透身形如刀文曰貨布五
百疑王莽所鑄

唐書玄宗開元三年冬米一斛直
三錢



驛路鈴

隱岐國造家之所藏

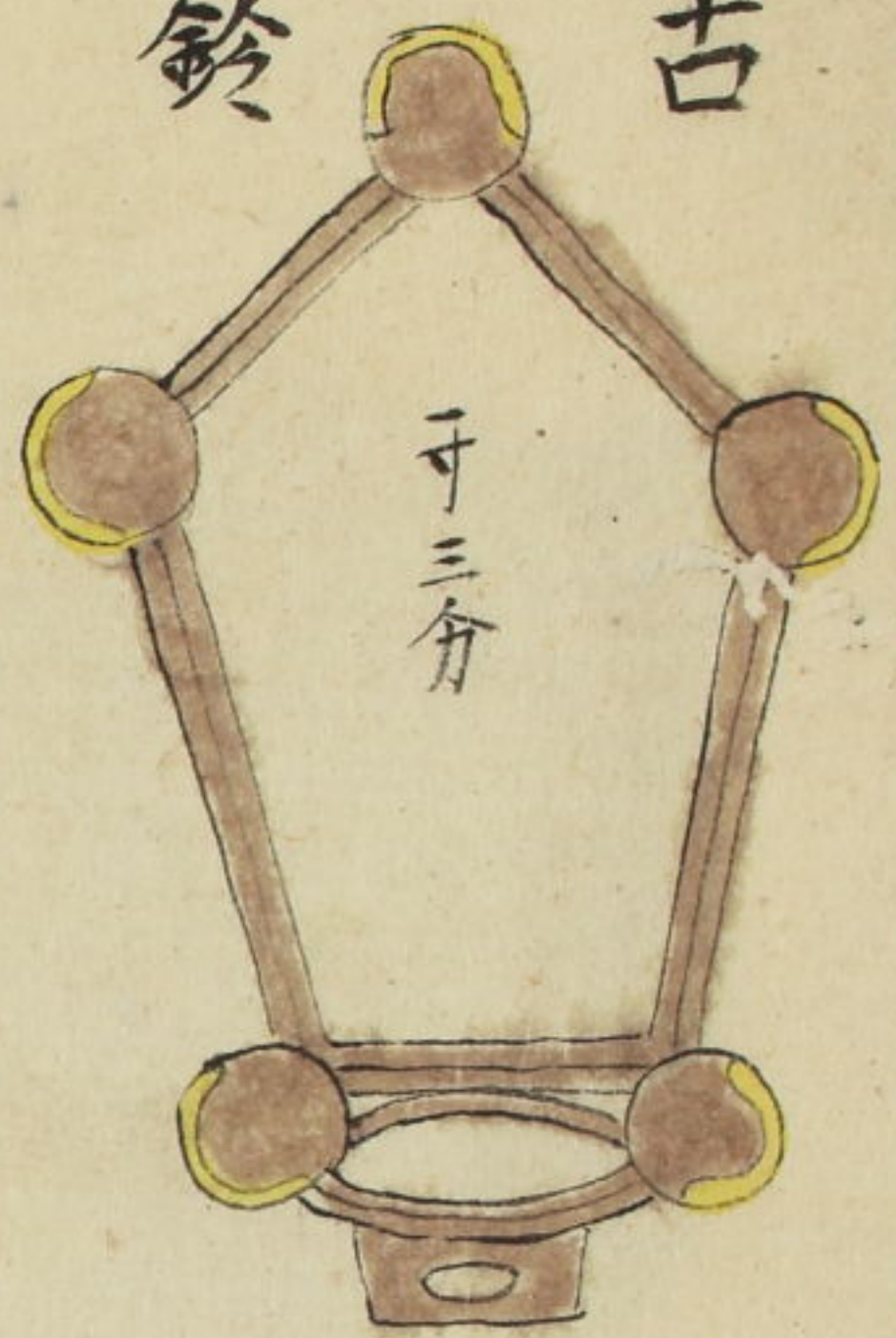
珍重也。旧傳云。此物ありり。三音。元
長く。色平。面。釋。鈴。の。ニ。音。あり。胡。の
古。也。字。音。物。多。年。の。古。也。と。い。は。る。
今。も。此。物。元。代。の。音。あり。と。い。は。る。

高五分 每積一分強



總經年分内三錢をアリ

古鈴



行德湊村青嶋山善照寺淨刹收藏
 斤量平二錢目餘唐銅ノ如三其甚古也總長
 三寸二分劍ノ裏延板鈴大寸三寸四寸内ニ石一ツ
 在鈴ノ口寸八寸劍先ヨリ元二テ寸三分

吾嚮權現神寶古鈴一
 長寸二分 銅色愛入

鹿嶋正等寺藏



藤原縣齋宮藏



驛路鈴



常陸國鹿島大神之神宮寺正等寺什物也
 昔朝敵退治ノ節賜大將軍節力驛路鈴事
 在曆書又曰勅使及諸卿任國下向時賜此鈴云
 長一尺一分
 眉目鼻共皆置上彫也

武藏葛飾吾嚮森常陸鹿島神室ノ鈴ハ六角弁ト云モ不合驛鈴ニハ在之マシ
 信濃人成澤實經ノ鈴志ニ出レハ爰ニ畧ス
 相坂の岡九郎右衛門尉傳乃の鈴ニホカ也 堀川百首 匡房

六後驛鈴 高橋圖
 南草



此圖之鈴雲而乏人所持驛路之鈴之由申
 傳云々先年推乃之上京其節或人摹其形
 今以其圖寫之惜哉此鈴室永京都大火
 於旅館燒失云々 御厨所預 紀宗直

以初三丙戌年... 銅紫一枚未知為何物也



高六寸五分

卷器令限号

考以六丙午日月初初上... 卷器令限号

高寸七寸



高寸四分

高寸七寸



高寸四分



長七寸

隨中心後角而度之二尺五分



長七寸



長五寸

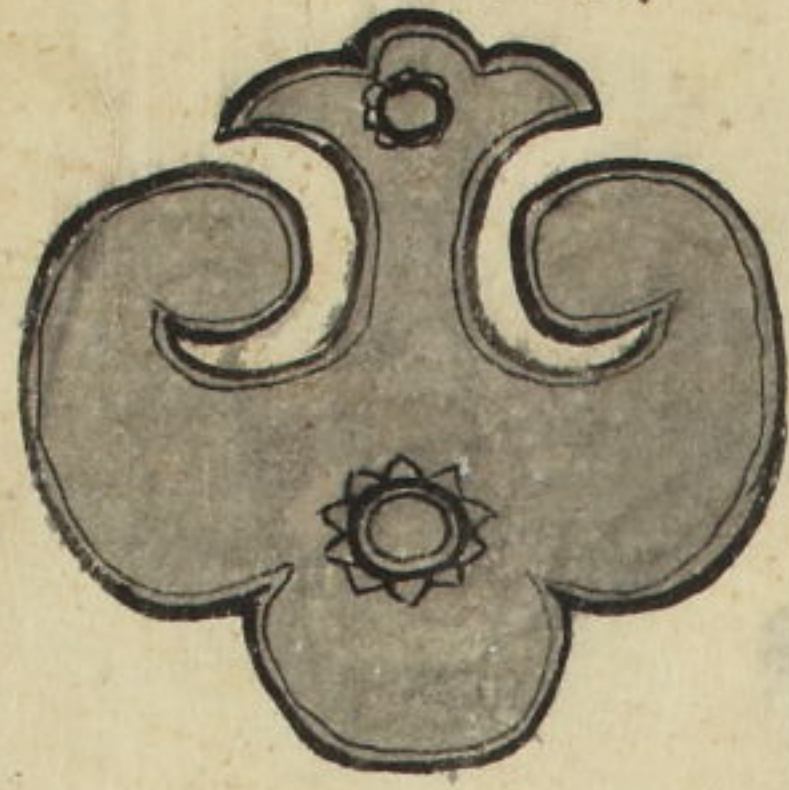
高四寸

高七寸

高四寸

長二尺三寸

雲版一



武而荏原郡品川補陀山海晏寺禪曹洞三田切運寺末
高廿一尺四寸八分 横一尺二寸三分
蓮花大廿二寸四分
背二尺永廿二口口記入大工妙口口在之

後日る多二月... 此也乃よりリ

瓦缶

小山驛逆旅小川何某所藏

口徑一尺四分



帶高一尺四分

口徑一尺四分

口徑一尺四分

口徑一尺四分

總長一尺四分

口徑一尺四分

洞澤

師育王の家澤といふ洞澤
 貞観二年八月辛卯三のあ
 市河の禪母曰く澤首野村松
 山中方場出ス申す改元年
 日也言口村方し場出ス
 六年経勢か志強中川口村
 赤川呂口方し場出ス

目撃年と云ふ所のくゆまといふ山標の義申ありとも
 奇飾と云ふ所を景詠考證しつゝ書しあれと石山
 宝篋ヲ場出つゝる号ぬゆりぬれし画工其のナリ
 写せしと云ふこと



阿育王の洞澤の号



寛文之頃

倍而依久郡 出在器

乳高寸二分 西乳間

寸八分

全量七升八合八勺容

蟻川氏藏

釜ニ有羊是ヲ藪ト云

周ノ四石ニ三テ今ノ四斗

二升三合三勺余ナリ



本間秀高秘藏



36615

